

シラバス情報収集フォーマット(2016年6月改訂)

【記入要領】

1. 下記の**緑色部分**をご記入ください。(記入内容が無い場合は空白とせず無しと記入)
2. **グレー部分**は大学ごとに異なるため必要に応じて個別に対応をお願いする項目です。
3. **白色部分**はあらかじめ想定内容を記入しています。
4. 教員から学生へ必ず伝えてほしい内容についてはチェックボックスへチェック☑を入れて下さい。(各大学のシラバスに必ず記載されません)

1. 開講年度	2020		2. 開講学期	第1学期	
3. 開講学部・学科等 ／区分等	共通教育		4. 授業形態／授業種別	eラーニング	
5. 授業科目区分／科目分野 ／科目区分／区分等	教養科目自然分野		6. DPコード／分野コード ／科目ナンバリング		
7. 科目名／科目英文名 ／英文併記	(日本語名) 気象学入門 (英文名) Introduction to meteorology				
8. 副題(日本語・英語)	(日本語名)なし (英文名)なし				
9. 担当教員名(教員ローマ字表記)	(日本語)佐々 浩司 (ローマ字) SASSA Koji				
10. 時間割コード／申請コード ／授業コード			11. 昼夜		
12. 単位数	2		13. 選必修区分／単位区分	選択	
14. 対象学生	全学部全学科		15. 対象年次／区分等 ／標準履修年次	1年生以上	
16. 曜日・時限	なし		17. 講義室		
18. 履修推奨科目	自大学 学生向け	なし	19. 関連科目(関連科目 コード番号)	自大学 学生向け	なし
	連携大学 学生向け	なし		連携大学 学生向け	なし
20. 授業のキーワード ／英文キーワード (3 つ以上5つ以下)	気象、天気予報、気象災害 meteorology, weather report, meteorological disaster				
21. 授業概要	気象に関わる様々な現象は大気の運動や状態変化に伴って発生する。地球上の大気の動きを演習実験などにより説明するとともに、雨雲のできる様子、気象災害の起こる原因や、天気図の見方などについて解説する。				<input checked="" type="checkbox"/>
22. 授業の目的及び 主旨／授業科目の主題	天気の移り変わりにおける大まかなメカニズムを理解するとともに気象学を学ぶ基礎的知識を身につける。さらに天気予報で示される天気図や様々なデータからどのようなことが把握できるのか理解する。				<input checked="" type="checkbox"/>
23. 授業の到達目標 ／学修課題	日本における天気の大きな動きを理解し、天気予報やレーダーデータなどの気象情報を的確に把握できる。				<input checked="" type="checkbox"/>

24. ディプロマ・ポリシー (卒業時の到達目標・共通教育の理念・教育方針に関わる項目)			
25. カリキュラムマップ (授業科目の主題・授業科目の到達目標とカリキュラムマップ)			
26. 授業スケジュール／授業計画並びに授業及び学習の方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 気象の様々なすがた 2. 天気と気候のとらえかた 3. 気象の時間的空間的な大きさ 4. 大気の気温分布と熱のやりとり 5. 地球規模の流れ 6. 低気圧と高気圧 7. 熱帯低気圧: 台風 8. 風の吹き方、局地的な風 9. 天気図をみてみよう 10. 雲のできかたと雨 11. 豪雨 12. 強風と突風 13. 竜巻とダウンバースト 14. 地球温暖化とは 15. 気候変動と気象災害 	<input checked="" type="checkbox"/>	
27. 授業時間外学習にかかわる情報	毎回の講義内容のまとめを行う		<input checked="" type="checkbox"/>
28. 成績評価の方法と基準	<p>毎回の講義内容に対する小テスト15回分 40点</p> <p>※小テストの詳細については、moodle上の各回の欄にて確認すること。</p> <p>5回分の内容の理解度を調べるレポート3回分 60点 合計100点で評価する。</p> <p>ただし、毎回の講義内容に対する小テストの受講が10回未満のものについては、5回分の内容の理解度を調べるレポートの提出回数に関わりなく、最終的な成績評価を0～59点で行う。</p>		<input checked="" type="checkbox"/>
29. 再試験の有無	自大学学生向け	なし	<input checked="" type="checkbox"/>
	連携大学学生向け	なし	
30. 受講の条件／先行科目／受講人数制限	<p>受講の条件: 気象に興味があること。</p> <p>受講人数制限: あり</p> <p>香川大学20名・徳島大学20名・鳴門教育大学20名・高知大学制限なし・愛媛大学20名</p>		<input checked="" type="checkbox"/>
31. 受講のルール履修上の注意・担当教員からのメッセージ／履修希望学生に求めるもの	日頃から天気予報を見る習慣や空を見る習慣をつけておくと思います。		<input checked="" type="checkbox"/>

32. 教科書(購入の必要のある図書)	教科書1	書名				<input type="checkbox"/>
		ISBN		著者名		
		出版社		出版年		
		金額		備考		
33. 教科書・参考書に関する補足情報	参考書1	書名				<input type="checkbox"/>
		ISBN		著者名		
		出版社		出版年		
		金額		備考		
	参考書2	書名				
		ISBN		著者名		
		出版社		出版年		
		金額		備考		
	参考書3	書名				
		ISBN		著者名		
		出版社		出版年		
		金額		備考		
34. Webテキスト(URL・説明)	moodle上に掲載 大学連携e-Learning教育支援センター四国(知プラ)ホームページ https://chipla-e.itc.kagawa-u.ac.jp/				<input checked="" type="checkbox"/>	
35. パソコン必要度	必要	36. 資格等／本科目受講が必要となる資格等／資格取得該当科目	なし	<input checked="" type="checkbox"/>		
37. 教員相互参観授業公開日程					<input type="checkbox"/>	
38. オフィスアワー	自大学 学生向け	10時～12時、13時半～18時のうち、講義時間以外(要事前確認)			<input checked="" type="checkbox"/>	
	連携大学 学生向け	(Skype等webで対応できる場合のみ) sassa@kochi-u.ac.jp			<input checked="" type="checkbox"/>	
39. 連絡先／学生相談場所／学生開示用メール	自大学 学生向け	研究室(理学部1号館108室) sassa@kochi-u.ac.jp			<input checked="" type="checkbox"/>	
	連携大学 学生向け	sassa@kochi-u.ac.jp			<input checked="" type="checkbox"/>	
40. その他／備考	なし				<input checked="" type="checkbox"/>	

シラバス情報収集フォーマット(2016年6月改訂)

【記入要領】

1. 下記の**緑色部分**をご記入ください。(記入内容が無い場合は空白とせず無しと記入)
2. **グレー部分**は大学ごとに異なるため必要に応じて個別に対応をお願いする項目です。
3. **白色部分**はあらかじめ想定内容を記入しています。
4. 教員から学生へ必ず伝えてほしい内容についてはチェックボックスへチェック☑を入れて下さい。(各大学のシラバスに必ず記載されま
す)

1. 開講年度	2020		2. 開講学期	第2学期	
3. 開講学部・学科等 ／区分等	共通教育		4. 授業形態／授業種 別	eラーニング	
5. 授業科目区分／科 目分野／科目区分／ 区分等	教養科目自然分野		6. DPコード／分野コー ド／科目ナンバリング		
7. 科目名／科目英文 名／英文併記	(日本語名) インタフェースデザイン概論 (英文名) Introduction to Interface Design				
8. 副題(日本語・英 語)	(日本語名) なし (英文名) なし				
9. 担当教員名(教員 ローマ字表記)	(日本語) 三好 康夫 (ローマ字) MIYOSHI Yasuo				
10. 時間割コード／申 請コード／授業コード			11. 昼夜		
12. 単位数	1		13. 選必区分／単位区 分	なし	
14. 対象学生	1年次以降／全学部		15. 対象年次／区分等 ／標準履修年次	1年次以降／全学部	
16. 曜日・時限	なし		17. 講義室		
18. 履修推奨科目	自大学 学生向け	特になし	19. 関連科目(関連科 目コード番号)	自大学 学生向け	特になし
	連携大学 学生向け	特になし		連携大学 学生向け	特になし
20. 授業のキーワード ／英文キーワード(3 つ以上5つ以下)	ヒューマンインタフェース, 入力デバイス, インタラクションデザイン, 情報デザイン Human Interface, Input Devices, Interaction Design, Information Design				
21. 授業概要	本授業では、ヒューマンインタフェースの概念や人間の特性、情報システムの使いやすさ等について概説し、主にソフトウェアのユーザインタフェース設計手法について言及する。情報システム等の使いやすさの論理的な評価方法や、使いやすさを意識した GUI 設計の考え方を学ぶ。				☑
22. 授業の目的及び 主旨／授業科目の主 題	・ヒューマンインタフェースの概念を学び、情報システムの使いやすさについて考える。 ・Web デザインやスマートフォン・タブレットアプリ開発の手法や、情報デザインとインタラクションデザインの考え方を学ぶ。				☑
23. 授業の到達目標 ／学修課題	(1) 情報システム等の使いやすさを論理的に評価することができる (2) 使いやすさを意識した GUI 設計の考え方を説明できる				☑

24. ディプロマ・ポリシー(卒業時の到達目標・共通教育の理念・教育方針に関わる項目)						
25. カリキュラムマップ(授業科目の主題・授業科目の到達目標とカリキュラムマップ)						
26. 授業スケジュール／授業計画並びに授業及び学習の方法	<p>【授業計画】</p> <p>※ 授業内容は変更になる可能性があります。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス, ヒューマンインタフェースとは 2. Webやモバイル端末におけるヒューマンインタフェース 3. コミュニケーション支援, インタラクションのデザイン 4. 情報のデザイン, サイト設計, ユーザビリティ評価 5. 人間の情報処理モデル, ヒューマンエラー, 人間サイドからの設計 6. 情報入力系, 情報出力系, インタラクションの拡張 7. ユーザのアシスト, ユニバーサルデザイン, 今後のヒューマンインタフェース 8. ペーパープロトタイピング, 期末レポート 				☑	
27. 授業時間外学習にかかわる情報	e-Learning コンテンツの視聴確認も兼ねて, 各回において知識定着度を判定するための小テストを課しています。しっかり復習してから小テストを受験してください。				☑	
28. 成績評価の方法と基準	各回的小テストを計 35 点満点, 各回のレポートを計 35 点満点, 期末レポートを 30 点満点で評価し, 合計 60 点以上を合格とする。ただし, 各回(1~7 回)の小テストとレポートを全て提出しなければ, 期末レポートは提出できないので注意すること。				☑	
29. 再試験の有無	自大学学生向け	なし			☑	
	連携大学学生向け	なし				
30. 受講の条件／先行科目／受講人数制限	<p>受講人数制限:あり</p> <p>香川大学 <u>15</u>名・徳島大学 <u>15</u>名・鳴門教育大学 <u>15</u>名・高知大学 <u>15</u>名・愛媛大学 <u>15</u>名</p>				☑	
31. 受講のルール履修上の注意・担当教員からのメッセージ／履修希望学生に求めるもの	<p>第 1 回目から第 8 回目までの受講はすべて, インターネットに接続できるパソコンから Moodle とよばれる LMS(Learning Management System)にアクセスして e-Learning コンテンツを視聴する形態となる。動画コンテンツを視聴する際は, 話のポイントをノートに書き取るなど, 主体的な学習態度を心がけること。その他受講方法の詳細については, 第 1 回(ガイダンス)を参照されたい。</p>				☑	
32. 教科書(購入の必要のある図書)					☑	
	教科書 1	書名	イラストで学ぶヒューマンインタフェース 改訂第2版			
		ISBN	978-4-06-516143-2	著者名		北原義典
		出版社	講談社	出版年		2019
金額		2,600 円+税	備考			

33. 教科書・参考書に関する補足情報	参考書 1	書名				□
		ISBN		著者名		
		出版社		出版年		
		金額		備考		
	参考書 2	書名				
		ISBN		著者名		
		出版社		出版年		
		金額		備考		
	参考書 3	書名				
		ISBN		著者名		
		出版社		出版年		
		金額		備考		
34. Web テキスト (URL・説明)	大学連携 e-Learning 教育支援センター四国(知プラ)ホームページ https://chipla-e.itc.kagawa-u.ac.jp/				☑	
35. パソコン必要度	必要	36. 資格等／本科目受講が必要となる資格等／資格取得該当科目	なし 教職・その他()		☑	
37. 教員相互参観授業公開日程					□	
38. オフィスアワー	自大学 学生向け	電子メール(miyoshi+el@is.kochi-u.ac.jp)を利用してください			☑	
	連携大学 学生向け	電子メール(miyoshi+el@is.kochi-u.ac.jp)を利用してください			☑	
39. 連絡先／学生相談場所／学生開示用メール	自大学 学生向け	miyoshi+el@is.kochi-u.ac.jp			☑	
	連携大学 学生向け	miyoshi+el@is.kochi-u.ac.jp			☑	
40. その他／備考	高知大学理工学部情報科学科の学生と、高知大学理学部応用理学科情報科学コースの学生は、学部 の専門科目に「ヒューマン・コンピュータ・インタラクション(2年次以上対象)」という科目がありますの で、この科目は履修せずにヒューマン・コンピュータ・インタラクションを履修するようにしてください。				☑	

シラバス情報収集フォーマット(2016年6月改訂)

【記入要領】

1. 下記の**緑色部分**をご記入ください。(記入内容が無い場合は空白とせず無しと記入)
2. **グレー部分**は大学ごとに異なるため必要に応じて個別に対応をお願いする項目です。
3. **白色部分**はあらかじめ想定内容を記入しています。
4. 教員から学生へ必ず伝えてほしい内容についてはチェックボックスへチェック☑を入れて下さい。(各大学のシラバスに必ず記載されま
す)

1. 開講年度	2020		2. 開講学期	第1学期		
3. 開講学部・学科等 ／区分等	共通教育		4. 授業形態／授業種 別	eラーニング		
5. 授業科目区分／科 目分野／科目区分／ 区分等	教養科目キャリア形成支援分野		6. DPコード／分野コー ド／科目ナンバリング			
7. 科目名／科目英文 名／英文併記	(日本語名) 大学生活入門 (英文名) Guide for New face in University					
8. 副題(日本語・英 語)	(日本語名) 大学期間中にこれならできそうだと思う目標・計画を立てよう! (英文名) Let's start planning your university life!					
9. 担当教員名(教員 ローマ字表記)	(日本語) 高畑 貴志 (ローマ字) TAKABATAKE Takashi					
10. 時間割コード／申 請コード／授業コード			11. 昼夜			
12. 単位数	2		13. 選必区分／単位区 分	なし		
14. 対象学生	全学部全学科		15. 対象年次／区分等 ／標準履修年次	1年生		
16. 曜日・時限	なし		17. 講義室			
18. 履修推奨科目	自大学 学生向け	なし	19. 関連科目(関連科 目コード番号)	自大学 学生向け	なし	
	連携大学 学生向け	なし		連携大学 学生向け	なし	
20. 授業のキーワード ／英文キーワード (3 つ以上5つ以下)	目的・目標・計画、大学生活、キャリア、eラーニング、ストーリー中心型カリキュラム(SCC) Make your Plan, University Life, Career, e-Learning, Story-centered curriculum					
21. 授業概要	<p>大学生生活を有意義に過ごすための手助けをする科目です。大学卒業後にどうなっていたいのか、それに向けて何をすればよいかを具体的に考えていくための活動をいくつも用意しています。</p> <p>この科目はeラーニングですが、ビデオなどの視聴はほとんどありません。実際に行うことは次の通りです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指示に従って実際にどこかへ出向き、その証拠としてスマホ等を使い現地で撮影した自撮り写真などを提出 ・出向いた先で知ったこと、学んだことについてのレポート(感想や意見など)を提出 ・LMS上でディスカッション など <p>またこの授業の特徴は、提示されるストーリーの軸に沿って、各回で示されるさまざまな出来事に取り組むという方法をとっていることです。このような学習方法をストーリー中心型カリキュラム(SCC)と呼んで</p>					☑

	<p>います。</p> <p>教材、課題の一部を下記URLで公開しています。(担当教員の高知大Office365のOneDrive上のファイルです) 受講を検討する際に参考にしてください。(2行になっていますが改行せず入力すること)</p> <p>https://kochiuacjp-my.sharepoint.com/:b:/g/personal/k78145558_kochi-u_ac_jp/EVh0wpJVrsIJkMJ1vsaTdWcB0tjth0etbrV_nmSsSC8Gww?e=EYjxxg</p>	
<p>22. 授業の目的及び主旨／授業科目の主題</p>	<p>1) 大学卒業後の自分の姿を思い描き、その実現に向けて、大学期間中にこれならできそうだと思う行動目標を1つ以上立て、それらを含む学期単位・年単位での計画を作成することができる。</p> <p>2) 自らが立てた行動目標・計画を実行するために必要となる(かもしれない)大学内外のリソース(授業そのものや図書館等の設備、学外の施設など)に親しむことができる。</p>	<input checked="" type="checkbox"/>
<p>23. 授業の到達目標／学修課題</p>	<p>1-1) 大学卒業後の自分の姿を思い描き、その実現に向けて、大学期間中にこれならできそうだと思う行動目標を1つ以上立てることができる。</p> <p>1-2) 自らが立てた行動目標実現のために、学期単位・年単位での計画を作成することができる。</p> <p>2) 自らが立てた行動目標・計画を実行するために必要な大学内外のリソースに触れ、それらの役割・自分にとっての意味について説明することができる。</p>	<input checked="" type="checkbox"/>
<p>24. ディプロマ・ポリシー(卒業時の到達目標・共通教育の理念・教育方針に関わる項目)</p>		
<p>25. カリキュラムマップ(授業科目の主題・授業科目の到達目標とカリキュラムマップ)</p>		
<p>26. 授業スケジュール／授業計画並びに授業及び学習の方法</p>	<p>第1回 【ブロック1: 大学生生活の始まり】</p> <p>入学おめでとう!</p> <p>(あなたは架空の大学 Unlearn University に入学しました!)</p> <p>第2回 【ブロック1: 大学生生活の始まり】</p> <p>新しい環境の探索</p> <p>(主に大学内の施設・設備を探索します。)</p> <p>第3回 【ブロック1: 大学生生活の始まり】</p> <p>先輩の話</p> <p>(社会人となった先輩の話を聞く機会があります。)</p> <p>第4回 【ブロック2: 1年生のスタート】</p> <p>正課外活動に取り組みたい</p> <p>(授業以外の活動に取り組むことを勧められました。)</p> <p>第5回 【ブロック2: 1年生のスタート】</p> <p>ディスカッションのできる場所はどこ?</p> <p>(授業時間外にグループワークをする授業があり、ディスカッションをする場所を探さなければなりません。)</p> <p>第6回 【ブロック2: 1年生のスタート】</p> <p>友人の訪問(1)</p>	<input checked="" type="checkbox"/>

	<p>(長期休みになり、友人が訪ねてきました。県内を案内したいと思います。)</p> <p>第7回 【ブロック2:1年生のスタート】</p> <p>ノートのコピーさせて欲しいという依頼</p> <p>(授業を休んだ友だちが、突然、ノートを見せてくれと言ってきました。)</p> <p>第8回 【ブロック3:2年生から4年生まで】</p> <p>インターン活動へのアクセス</p> <p>(学生時代にインターンを行うことを強く勧められました。)</p> <p>第9回 【ブロック3:2年生から4年生まで】</p> <p>図書館からのメール</p> <p>(図書館で本を借りました。)</p> <p>第10回 【ブロック3:2年生から4年生まで】</p> <p>友人の訪問(2)</p> <p>(別の友人が訪ねてくることになりました。)</p> <p>第11回 【ブロック3:2年生から4年生まで】</p> <p>研究室を決めないと</p> <p>(そろそろ研究室を決める必要ができました。)</p> <p>第12回 【ブロック3:2年生から4年生まで】</p> <p>就職支援室で情報収集</p> <p>(就職支援室でどんな支援が受けられるのか、探してみようと思います。)</p> <p>第13回 【ブロック4:大学生生活の終わりに向けて】</p> <p>卒論の準備(1)</p> <p>(図書館やインターネットなどで情報検索・情報収集をします。)</p> <p>第14回 【ブロック4:大学生生活の終わりに向けて】</p> <p>卒論の準備(2)</p> <p>(図書館やインターネットなどで情報検索・情報収集をします。)</p> <p>第15回 【ブロック4:大学生生活の終わりに向けて】</p> <p>後輩へのアドバイス</p> <p>(卒業にあたり、後輩へのアドバイスをまとめます。)</p> <p>第16回 【ブロック5:まとめ】</p> <p>ストーリーから離れ、自分自身の目標・計画を立てる</p>	
<p>27. 授業時間外学習にかかわる情報</p>	<p>講義受講型ではないため、授業時間内・授業時間外という枠はありません。</p>	<input checked="" type="checkbox"/>
<p>28. 成績評価の方法と基準</p>	<p>【ブロック1(第1回～第3回)】</p> <p>課題1:目標と計画(最初)10点</p> <p>(各回に設けられたタスクは成績評価対象外ですが、必須の活動です。)</p> <p>【ブロック2～ブロック4(第4回～第15回)】</p> <p>課題2:さまざまな活動(タスク)への取り組み 50点</p> <p>(各回に設けられた3つ程度のタスクは必須の活動であり、成績評価の対象です。)</p> <p>【ブロック5(まとめ回)】</p> <p>課題3:疑似体験を踏まえた目標と計画(最後)40点</p> <p>(各回に設けられたタスクは成績評価対象外ですが、必須の活動です。)</p> <p>合計 100点</p>	<input checked="" type="checkbox"/>

	単位の修得には60点以上の成績が必要です。					
29. 再試験の有無	自大学学生向け	なし	<input checked="" type="checkbox"/>			
	連携大学学生向け	なし				
30. 受講の条件／先行科目／受講人数制限	受講人数制限:あり 香川大学15名・徳島大学15名・鳴門教育大学15名・高知大学15名・愛媛大学15名 科目の性格から、1年次での受講を強く推奨します。		<input checked="" type="checkbox"/>			
31. 受講のルール履修上の注意・担当教員からのメッセージ／履修希望学生に求めるもの	eラーニングです。パソコン(やスマホ)からインターネットを介して、学習コンテンツにアクセスする必要があるため、パソコン操作は必須です。また、大学から割り当てられたメールアドレスでのメール送受信も必要となります。さらに、取り組みの中にはスマホ(デジカメ)等での”自撮り”写真の提出などがあります。		<input checked="" type="checkbox"/>			
32. 教科書(購入の必要のある図書)	教科書1	書名		<input type="checkbox"/>		
		ISBN			著者名	
		出版社			出版年	
		金額			備考	
33. 教科書・参考書に関する補足情報	参考書1	書名		<input type="checkbox"/>		
		ISBN			著者名	
		出版社			出版年	
		金額			備考	
	参考書2	書名				
		ISBN			著者名	
		出版社			出版年	
		金額			備考	
	参考書3	書名				
		ISBN			著者名	
		出版社			出版年	
		金額			備考	
34. Webテキスト(URL・説明)	大学連携e-Learning教育支援センター四国(知プラ)ホームページ https://chipla-e.itc.kagawa-u.ac.jp/		<input checked="" type="checkbox"/>			
35. パソコン必要度	必要	36. 資格等／本科目受講が必要となる資格等 ／資格取得該当科目	なし <input checked="" type="checkbox"/>			
37. 教員相互参観授業公開日程			<input type="checkbox"/>			
38. オフィスアワー	自大学学生向け	なし	<input checked="" type="checkbox"/>			

	連携大学 学生向け	(Skype等webで対応できる場合のみ) なし	<input checked="" type="checkbox"/>
39. 連絡先／学生相談場所／学生開示用メール	自大学 学生向け	eラーニングシステム(LMS: Learning Management System)上の専用掲示板(フォーラム)でいつでも受け付けています。	<input checked="" type="checkbox"/>
	連携大学 学生向け	eラーニングシステム(LMS: Learning Management System)上の専用掲示板(フォーラム)でいつでも受け付けています。	<input checked="" type="checkbox"/>
40. その他／備考	moodleの使い方についての問い合わせ先: elmanabi@kochi-u.ac.jp		<input checked="" type="checkbox"/>

シラバス情報収集フォーマット(2016年6月改訂)

【記入要領】

1. 下記の**緑色部分**をご記入ください。(記入内容が無い場合は空白とせず無しと記入)
2. **グレー部分**は大学ごとに異なるため必要に応じて個別に対応をお願いする項目です。
3. **白色部分**はあらかじめ想定内容を記入しています。
4. 教員から学生へ必ず伝えてほしい内容についてはチェックボックスへチェック☑を入れて下さい。(各大学のシラバスに必ず記載されません)

1. 開講年度	2020		2. 開講学期	第2学期	
3. 開講学部・学科等 ／区分等	共通教育		4. 授業形態／授業種別	eラーニング	
5. 授業科目区分／科目分野 ／科目区分／区分等	教養科目キャリア形成支援分野		6. DPコード／分野コード ／科目ナンバリング		
7. 科目名／科目英文名 ／英文併記	(日本語名) 学びの統合入門 (英文名) Learning in University				
8. 副題(日本語・英語)	(日本語名) 将来の活動につながる情報・知識の蓄え方を身につけよう! (英文名) Let's develop your own learning style!				
9. 担当教員名(教員ローマ字表記)	(日本語) 杉田 郁代 (ローマ字) SUGITA Ikuyo				
10. 時間割コード／申請コード ／授業コード			11. 昼夜		
12. 単位数	2		13. 選必修区分／単位区分	なし	
14. 対象学生	全学部全学科		15. 対象年次／区分等 ／標準履修年次	1年生	
16. 曜日・時限	なし		17. 講義室		
18. 履修推奨科目	自大学 学生向け	なし	19. 関連科目(関連科目 コード番号)	自大学 学生向け	なし
	連携大学 学生向け	なし		連携大学 学生向け	なし
20. 授業のキーワード ／英文キーワード (3 つ以上5つ以下)	情報の管理, 知識の管理, eラーニング Information Management, Knowledge Management, e-Learning				
21. 授業概要	<p>大学での学びを意味のあるものにしていく手助けをする科目です。講義のノートの取り方、取り組み課題に関連する情報収集の仕方、集めた情報の管理の仕方、そして、収集・管理している情報からレポートへのアウトプットにつなげる具体的な方法を学びます。</p> <p>この科目はeラーニングですが、ビデオの視聴はほとんどありません。タスクの提出やLMS上のディスカッションなど、自律的に取り組む活動で構成されています。</p> <p>この授業では、提示されるストーリーの軸に沿って、各回で示されるさまざまな出来事に取り組むという方法をとっています。</p>				
22. 授業の目的及び 主旨／授業科目の主 眼	<p>1) 自分自身に適した情報インプット・管理の方法を身に付けることができる</p> <p>2) 自分で管理している情報等をレポート作成などで実際に使うことができる</p>				

<p>23. 授業の到達目標 ／学修課題</p>	<p>1) 講義ノートの取り方をいくつか試し、自分自身に適した方法を見出すことができる。 2) 取り組んでいる課題(レポートなど)に関連する情報収集の仕方・情報管理の仕方をいくつか試し、自分自身に適した方法を見出すことができる。 3) 自分で収集・管理している情報に基づいてレポートが作成できる。 4) 作成したレポートのどの部分にどのような情報を用いたのかを説明できる。</p>	<input checked="" type="checkbox"/>
<p>24. ディプロマ・ポリシー (卒業時の到達目標・共通教育の理念・教育方針に関わる項目)</p>		
<p>25. カリキュラムマップ (授業科目の主題・授業科目の到達目標とカリキュラムマップ)</p>		
<p>26. 授業スケジュール ／授業計画並びに授業及び学習の方法</p>	<p>第1回 【ブロック1:これまでの学びの方法の振り返り】 大学における学びとは？ (これまでの学び方を振り返ります。)</p> <p>第2回 【ブロック2:講義からのインプット】 自分に適したノートの取り方はどういうもの？(1) (コーネルメソッドによるノートの取り方)</p> <p>第3回 【ブロック2:講義からのインプット】 自分に適したノートの取り方はどういうもの？(2) (見開き記入ノートによるノートの取り方)</p> <p>第4回 【ブロック2:講義からのインプット】 自分に適したノートの取り方はどういうもの？(3) (三本線ノートによるノートの取り方)</p> <p>第5回 【ブロック2:講義からのインプット】 自分なりのノートの取り方を探る</p> <p>第6回 【ブロック3:講義以外からのインプット】 一元管理？二元管理？ーデジタルツールの使い方</p> <p>第7回 【ブロック3:講義以外からのインプット】 インターネットを通じて学術情報を得るためには</p> <p>第8回 【ブロック3:講義以外からのインプット】 収集した学術情報を次に役立てるために</p> <p>第9回 【ブロック3:講義以外からのインプット】 さまざまな情報をインターネットを通じて得るためには</p> <p>第10回 【ブロック3:講義以外からのインプット】 収集したさまざまな情報を次に役立てるために</p> <p>第11回 【ブロック3:講義以外からのインプット】 自分なりの収集情報管理方法を探る</p> <p>第12回 【ブロック4:アウトプットの準備とアウトプット】 アイデアを広げるツール</p>	<input checked="" type="checkbox"/>

	<p>第13回 【ブロック4:アウトプットの準備とアウトプット】 アイデアを絞り込むツール</p> <p>第14回 【ブロック4:アウトプットの準備とアウトプット】 アウトライン作成ツール</p> <p>第15回 【ブロック4:アウトプットの準備とアウトプット】 作成したレポートについてのレポート！</p> <p>第16回 【ブロック5:まとめ】 ストーリーから離れ、自分自身の学びの行動について振り返る</p>					
27. 授業時間外学習にかかわる情報	講義受講型ではないため、授業時間内・授業時間外という枠はありません。	<input checked="" type="checkbox"/>				
28. 成績評価の方法と基準	<p>【ブロック1(第1回)】 (設けられたタスクは成績評価の対象外ですが、必須の活動です。)</p> <p>【ブロック2(第2回～第5回)】 課題1: 自分なりのノートの取り方によって作成したノートの報告(30点) (各回に設けられたタスクは成績評価の対象外ですが、必須の活動です。)</p> <p>【ブロック3(第6回～第11回)】 課題2: 自分なりの情報管理方法で集めた情報一覧の報告(30点) (各回に設けられたタスクは成績評価の対象外ですが、必須の活動です。)</p> <p>【ブロック4(第12回～第15回)】 課題3: 作成したレポートのどこにどのような情報を使用したかの報告(40点) (各回に設けられたタスクは成績評価の対象外ですが、必須の活動です。)</p> <p>【ブロック5(まとめ回)】 (設けられたタスクは成績評価の対象外ですが、必須の活動です。)</p> <p>合計 100点 単位の修得には60点以上の成績が必要です。</p>	<input checked="" type="checkbox"/>				
29. 再試験の有無	自大学学生向け	なし	<input checked="" type="checkbox"/>			
	連携大学学生向け	なし				
30. 受講の条件／先行科目／受講人数制限	<p>受講人数制限:あり</p> <p>香川大学5名・徳島大学5名・鳴門教育大学5名・高知大学5名・愛媛大学5名</p> <p>科目の性格から、1年次での受講を強く推奨します。また、3年次以上での受講は推奨しません。</p>	<input checked="" type="checkbox"/>				
31. 受講のルール履修上の注意・担当教員からのメッセージ／履修希望学生に求めるもの	<p>・レポート課題を課す別の科目を1つ以上並行して履修している必要があります(この科目は、別の科目で課せられたレポートをよりよく書くためのスキルを学ぶ科目だからです)。</p> <p>・eラーニングです。パソコン(やスマホ)からインターネットを介して、学習コンテンツにアクセスする必要があるため、パソコン操作は必須です。また、大学から割り当てられたメールアドレスでのメール送受信も必要となります。</p>	<input checked="" type="checkbox"/>				
32. 教科書(購入の必要のある図書)	教科書1	書名		<input type="checkbox"/>		
		ISBN			著者名	
		出版社			出版年	
		金額			備考	

33. 教科書・参考書に関する補足情報	参考書1	書名				<input type="checkbox"/>
		ISBN		著者名		
		出版社		出版年		
		金額		備考		
	参考書2	書名				
		ISBN		著者名		
		出版社		出版年		
		金額		備考		
	参考書3	書名				
		ISBN		著者名		
		出版社		出版年		
		金額		備考		
34. Webテキスト (URL・説明)	大学連携e-Learning教育支援センター四国(知プラ)ホームページ https://chipla-e.itc.kagawa-u.ac.jp/				<input checked="" type="checkbox"/>	
35. パソコン必要度	必要	36. 資格等／本科目受講が必要となる資格等 ／資格取得該当科目	なし		<input checked="" type="checkbox"/>	
37. 教員相互参観授業公開日程					<input type="checkbox"/>	
38. オフィスアワー	自大学 学生向け	なし			<input checked="" type="checkbox"/>	
	連携大学 学生向け	(Skype等webで対応できる場合のみ) なし			<input checked="" type="checkbox"/>	
39. 連絡先／学生相談場所／学生開示用メール	自大学 学生向け	eラーニングシステム(LMS: Learning Management System)上の専用掲示板(フォーラム)でいつでも受け付けています。			<input checked="" type="checkbox"/>	
	連携大学 学生向け	eラーニングシステム(LMS: Learning Management System)上の専用掲示板(フォーラム)でいつでも受け付けています。			<input checked="" type="checkbox"/>	
40. その他／備考	学校現場の教員経験を持つ教員が、学生が大学における学びに向かう力を身に付けるための授業を行う。				<input checked="" type="checkbox"/>	

シラバス情報収集フォーマット(2016年6月改訂)

【記入要領】

1. 下記の**緑色部分**をご記入ください。(記入内容が無い場合は空白とせず無しと記入)
2. **グレー部分**は大学ごとに異なるため必要に応じて個別に対応をお願いする項目です。
3. **白色部分**はあらかじめ想定内容を記入しています。
4. 教員から学生へ必ず伝えてほしい内容についてはチェックボックスへチェック☑を入れて下さい。(各大学のシラバスに必ず記載されま
す)

1. 開講年度	2020		2. 開講学期	第1学期	
3. 開講学部・学科等 ／区分等	共通教育		4. 授業形態／授業種 別	eラーニング	
5. 授業科目区分／科 目分野／科目区分／ 区分等	教養科目キャリア形成支援分野		6. DPコード／分野コー ド／科目ナンバリング		
7. 科目名／科目英文 名／英文併記	(日本語名) アクティブラーニング入門 (英文名) Learning Methods of Active Learners				
8. 副題(日本語・英 語)	(日本語名) 体験する教室 (英文名) Experience in Classroom				
9. 担当教員名(教員 ローマ字表記)	(日本語) 高畑 貴志 (ローマ字) TAKABATAKE Takashi				
10. 時間割コード／申 請コード／授業コード			11. 昼夜		
12. 単位数	1		13. 選必区分／単位区 分	なし	
14. 対象学生	全学部全学科		15. 対象年次／区分等 ／標準履修年次	1年生	
16. 曜日・時限	なし		17. 講義室		
18. 履修推奨科目	自大学 学生向け	なし	19. 関連科目(関連科 目コード番号)	自大学 学生向け	なし
	連携大学 学生向け	なし		連携大学 学生向け	なし
20. 授業のキーワード ／英文キーワード (3 つ以上5つ以下)	参加型授業, アイスブレイキング, 反転授業, Active Learning, Ice breaking, Flipped Classroom				
21. 授業概要	今, 小・中・高等学校では, アクティブラーニングの導入が進められています。都市部の有名進学校で 先行して導入されているところは, 既の実績を上げています。この授業では, いくつかのパターンを教材 化していますので, この教材を受講者がアクティブ(能動的)に学んでアクティブラーナーとなり, 将来教 員になって, あるいは就職した後教育係となって, 子供の親となって, アクティブラーニングの実践がで きるようになることを目指しています。				☑
22. 授業の目的及び 主旨／授業科目の主 題	・学習者が主体的に学ぶとはどういうことかわかる。 ・学習者が主体的に学ぶためにどのようなサポートが必要かわかる。				☑
23. 授業の到達目標 ／学修課題	アクティブラーニングを実施する上で, どのような準備(環境整備)が必要か説明できる。 失敗しないグループワークのために, 必要なことが3つ以上言える。 学習者の参加を促すために, 注意を払わなければならないこと(教員の視点)が3つ言える。 試験紙法の手順が説明できる。				☑

	PBLが効果的な授業と、試験紙法が効果的な授業のタイプ分けができる。	
24. ディプロマ・ポリシー（卒業時の到達目標・共通教育の理念・教育方針に関わる項目）		
25. カリキュラムマップ（授業科目の主題・授業科目の到達目標とカリキュラムマップ）		
26. 授業スケジュール／授業計画並びに授業及び学習の方法	<p>オリエンテーション</p> <p>第1回 初回の授業ですべきこと</p> <p>第2回 授業の最初にすべきこと</p> <p>第3回 学生からのフィードバックを得る方法</p> <p>第4回 失敗しないグループワークのために</p> <p>第5回 勉強の仕方を教える</p> <p>第6回 反転授業をやってみよう</p> <p>第7回 プレゼンテーションのコツ</p> <p>第8回 ICTを使う</p> <p>期末試験</p> <p>補助教材 Tips9 支援の必要な学生に対応した授業の工夫</p> <p>【授業及び学習の方法】</p> <p>全回オンデマンド型(非同期型遠隔講義)で行われます。Webテキストを使ってよく予習をし、毎回のレポートを提出した後、指定された期限までに章末テストに解答する順序で学習します。</p> <p>詳細については、初回のコンテンツに記載しているのでそちらを参照すること。</p>	☑
27. 授業時間外学習にかかわる情報	<p>【レポートの書き方】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・準備として、PDFテキストを読み、パラグラフごとに説明文をノートに書いてみましょう。ノートに書いた中から、5つ以上を選んでレポートとして提出してもらいます。ただし、レポートには異なるパラグラフから1文ずつを選ぶこと。 ・説明文は1文に1つの事柄を、具体的に書くこと。2つ以上の事柄を1文で書いてある場合や、2つ以上の文章で説明している場合、内容に間違いがある場合、文法的な間違いがある場合は再提出を求めます。また、主語と述語がそろっていない場合も再提出とします。 *章末テストの正解の選択肢を書くつもりで書いて下さい。 ・提出されたレポートにはコメントを返すので、コメントを見て参考とすること。ただし問題ない場合には「OK」、よく書かれている場合には「Good」とだけ返します。再提出が必要な場合には「再提出」と返します。* 提出後にコメント欄を確認すること。 ・レポートの最初の行には、タイトルを付けること。表紙は不要、タイトルはレポートの中身を表すものを自分で考えて付けること。2行目には自分の氏名、所属、学年を書くこと。1行空け、4行目から説明文を5つ書くこと。 * Goodの評価を得た場合は加点とします。 ・レポートのファイル名は、学籍番号v章番号とすること。(例:b143c021v4.docx) 	☑

	<ul style="list-style-type: none"> ・レポートはWordで作成し、圧縮せずに提出すること。 ・レポートはすべて提出すること。未提出や再提出が必要なのにしていなかった場合は、成績評価を行わない場合があります。 				
28. 成績評価の方法と基準	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回のレポート 40% レポートは全て提出すること。未提出のレポートがある場合には、成績評価を行いません。 ・毎回のレポート追加点 10% Goodの評価を受けている場合の加点 ・章末テスト 30% 十分な予習時間をとり、間違えずに短時間で全問正解すること。誤答すると減点されます。2回受験が可能で、2回受験した場合は平均点が成績として加算されます。 ・期末試験 20% ・単位修得のためには、全ての課題を終えた上で合計60点以上の点数を取得する必要があります。 				☑
29. 再試験の有無	自大学学生向け	なし			☑
	連携大学学生向け	なし			
30. 受講の条件／先行科目／受講人数制限	受講人数制限:あり 香川大学20名・徳島大学20名・鳴門教育大学20名・高知大学20名・愛媛大学20名				☑
31. 受講のルール履修上の注意・担当教員からのメッセージ／履修希望学生に求めるもの	<p>各章の章末テストに、標準的なスケジュール(解答期限)を設定しています。テストを受ける前にレポートを提出するため、レポート締切も同時期と考えて下さい。毎回のレポートを全て提出し、章末テストや期末試験を受験すること。未提出のレポートや未解答のテストがある場合、0点と評価します。</p> <p>* 締切に遅れても、必ず毎回のレポートを提出し、章末テストを受験してください。ただし、期末試験受験期限以降の評価は行いません。</p> <p>* 章末テストは2回受験可能で、2回受験した場合は平均点を成績とします。1回で高得点を得た場合、2回目を受験する必要はありません。</p> <p>* 標準スケジュールで示した各回の締切後にレポートをチェックし、コメントを返します。コメントを確認してください。レポートは、サイエンスコミュニケーションの練習のために書くものです。そのための評価基準を設定していますので、「受講の仕方」をよく読んで下さい。長い長いレポートを出す人がいますが、その場合は再提出にします。</p>				☑
32. 教科書(購入の必要のある図書)	教科書1	書名			☐
ISBN		著者名			
出版社		出版年			
金額		備考			
33. 教科書・参考書に関する補足情報	参考書1	書名			☐
ISBN		著者名			
出版社		出版年			
金額		備考			
参考書2	書名				
	ISBN	著者名			
	出版社	出版年			

		金額		備考		
	参考書3	書名				
		ISBN		著者名		
		出版社		出版年		
		金額		備考		
34. Webテキスト (URL・説明)	大学連携e-Learning教育支援センター四国(知プラ)ホームページ https://chipla-e.itc.kagawa-u.ac.jp/				<input checked="" type="checkbox"/>	
35. パソコン必要度	必要	36. 資格等／本科目受 講が必要となる資格等 ／資格取得該当科目		なし	<input checked="" type="checkbox"/>	
37. 教員相互参観授 業公開日程					<input type="checkbox"/>	
38. オフィスアワー	自大学 学生向け	なし			<input checked="" type="checkbox"/>	
	連携大学 学生向け	(Skype等webで対応できる場合のみ) なし			<input checked="" type="checkbox"/>	
39. 連絡先／学生相 談場所／学生開示用 メール	自大学 学生向け	moodle内のコミュニケーションツール(フォーラム)を利用すること。			<input checked="" type="checkbox"/>	
	連携大学 学生向け	moodle内のコミュニケーションツール(フォーラム)を利用すること。			<input checked="" type="checkbox"/>	
40. その他／備考	moodleの使い方についての問い合わせ先: elmanabi@kochi-u.ac.jp				<input checked="" type="checkbox"/>	

シラバス情報収集フォーマット(2016年6月改訂)

【記入要領】

1. 下記の**緑色部分**をご記入ください。(記入内容が無い場合は空白とせず無しと記入)
2. **グレー部分**は大学ごとに異なるため必要に応じて個別に対応をお願いする項目です。
3. **白色部分**はあらかじめ想定内容を記入しています。
4. 教員から学生へ必ず伝えてほしい内容についてはチェックボックスへチェック☑を入れて下さい。(各大学のシラバスに必ず記載されま
す)

1. 開講年度	2020		2. 開講学期	第1学期	
3. 開講学部・学科等 ／区分等	農林海洋科学部		4. 授業形態／授業種 別	eラーニング	
5. 授業科目区分／科 目分野／科目区分／ 区分等	専門教育)専門科目		6. DPコード／分野コー ド／科目ナンバリング		
7. 科目名／科目英文 名／英文併記	(日本語名) 海洋地球科学概論 Marine Geoscience				
8. 副題(日本語・英 語)	(日本語名) 知られざる「海洋」の理解と地球における役割 (英文名) Oceanography and Earth Science				
9. 担当教員名(教員 ローマ字表記)	(日本語) 村山 雅史 (ローマ字) MURAYAMA Masafumi				
10. 時間割コード／申 請コード／授業コード			11. 昼夜		
12. 単位数	2		13. 選必区分／単位区 分	なし	
14. 対象学生	全学部全学科		15. 対象年次／区分等 ／標準履修年次	1年生	
16. 曜日・時限	なし		17. 講義室		
18. 履修推奨科目	自大学 学生向け	地球科学入門, 地球科 学概論	19. 関連科目(関連科 目コード番号)	自大学 学生向け	地球科学入門(04035) 地球科学概論(80915)
	連携大学 学生向け	なし		連携大学 学生向け	なし
20. 授業のキーワード ／英文キーワード (3 つ以上5つ以下)	海洋の動態, 海洋地球科学, 生物地球化学サイクル, 地球環境 / Oceanography, Marine Geoscience, Biogeochemical Cycle, Earth Environments				
21. 授業概要	太陽系惑星で唯一存在する海洋の成り立ちと役割について学び, 地球規模での様々な物質循環や気 候変動について理解する。				<input checked="" type="checkbox"/>
22. 授業の目的及び 主旨／授業科目の主 題	受講生は, 地球表層環境における海洋の果たす役割をよりよく理解するために, 海水の循環とそれにと もなう物質循環, 海底の動きや地球内部変動, 堆積物に刻まれた地球環境の歴史と生命の進化に関 する事を学ぶ。とくに, 海洋の成り立ちや地球誕生から表層圏(大気圏, 水圏, 地圏, 生物圏)の進化の 過程で, 海洋の果たしてきた役割を理解する。				<input checked="" type="checkbox"/>
23. 授業の到達目標 ／学修課題	海洋学の理解, 海洋地球科学の理解, 地球表層環境の理解, 学習手法の理解				<input checked="" type="checkbox"/>

24. ディプロマ・ポリシー (卒業時の到達目標・共通教育の理念・教育方針に関わる項目)			
25. カリキュラムマップ (授業科目の主題・授業科目の到達目標とカリキュラムマップ)			
26. 授業スケジュール ／授業計画並びに授業及び学習の方法	<p>【授業スケジュール】</p> <p>第1回 地球における海洋の役割</p> <p>第2回 海はどのように形成されたか？</p> <p>第3回 海水の性質</p> <p>第4回 海の循環</p> <p>第5回 海の循環にともなう物質循環</p> <p>第6回 海底地形</p> <p>第7回 海底堆積物の種類I</p> <p>第8回 海底堆積物の種類II</p> <p>第9回 海洋観測(手法, 歴史, 船の生活)について</p> <p>第10回 海洋底に記録される環境の記憶</p> <p>第11回 新生代気候変動「地球寒冷化」</p> <p>第12回 地球温暖化と海洋酸性化</p> <p>第13回 プレートテクトニクス</p> <p>第14回 海底下生命圏の研究</p> <p>第15回 海底資源(メタンハイドレート)</p>		☑
27. 授業時間外学習にかかわる情報	参考図書を熟読すること, 受講ノートの復習		☑
28. 成績評価の方法と基準	<p>各講義の終了後に講義内容に関する10点満点の小テストをLMS上で実施する。定められた期限内に15回の講義コンテンツのうち最低10回以上の講義を聴き, 小テストに解答することが必須条件である。</p> <p>15回の講義終了時に, 15回の小テストの合計点(150点満点)を三分の二して100点満点に換算して成績をつける。</p> <p>なお期末試験は実施しない。</p>		☑
29. 再試験の有無	自大学学生向け	なし	☑
	連携大学学生向け	なし	
30. 受講の条件／先行科目／受講人数制限	<p>受講人数制限:あり</p> <p>香川大学10名・徳島大学10名・鳴門教育大学10名・高知大学なし・愛媛大学10名</p>		☑

<p>31. 受講のルール履修上の注意・担当教員からのメッセージ／履修希望学生に求めるもの</p>	<p>e-learning形式の講義であるため、履修に必要な手続きをしておく必要がある。講義コンテンツはmoodle(LMS)システムを通して配信するので、moodleの使い方等について十分理解しておくこと。また、ノートを準備し、受講中に要点や専門用語を書き留めて、自分なりの講義ノートを作成すること。理解できなかった箇所は、推薦図書を参考に必ず復習をおこなうこと。</p>				<input checked="" type="checkbox"/>																																																																																																																							
<p>32. 教科書(購入の必要のある図書)</p>	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td rowspan="4" style="text-align: center;">教科書1</td> <td>書名</td> <td colspan="3"></td> </tr> <tr> <td>ISBN</td> <td></td> <td>著者名</td> <td></td> </tr> <tr> <td>出版社</td> <td></td> <td>出版年</td> <td></td> </tr> <tr> <td>金額</td> <td></td> <td>備考</td> <td></td> </tr> </table>				教科書1	書名				ISBN		著者名		出版社		出版年		金額		備考		<input type="checkbox"/>																																																																																																						
教科書1	書名																																																																																																																											
	ISBN		著者名																																																																																																																									
	出版社		出版年																																																																																																																									
	金額		備考																																																																																																																									
<p>33. 教科書・参考書に関する補足情報</p>	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td rowspan="4" style="text-align: center;">参考書1</td> <td>書名</td> <td colspan="3">海洋地球化学</td> </tr> <tr> <td>ISBN</td> <td>978-4-06-155237-1</td> <td>著者名</td> <td>蒲生俊敬編</td> </tr> <tr> <td>出版社</td> <td>講談社サイエンティフィック</td> <td>出版年</td> <td>2014</td> </tr> <tr> <td>金額</td> <td></td> <td>備考</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="4" style="text-align: center;">参考書2</td> <td>書名</td> <td colspan="3">地球表層環境の進化-先カンブリア時代から近未来まで</td> </tr> <tr> <td>ISBN</td> <td>978-4-13-062720-7</td> <td>著者名</td> <td>川幡穂高</td> </tr> <tr> <td>出版社</td> <td>東大出版会</td> <td>出版年</td> <td>2008</td> </tr> <tr> <td>金額</td> <td></td> <td>備考</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="4" style="text-align: center;">参考書3</td> <td>書名</td> <td colspan="3">海洋地球環境学—生物地球化学循環から読む</td> </tr> <tr> <td>ISBN</td> <td>978-4-13-060752-0</td> <td>著者名</td> <td>川幡穂高</td> </tr> <tr> <td>出版社</td> <td>東大出版会</td> <td>出版年</td> <td>2011</td> </tr> <tr> <td>金額</td> <td></td> <td>備考</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="4" style="text-align: center;">参考書4</td> <td>書名</td> <td colspan="3">地質学I:地球のダイナミックス</td> </tr> <tr> <td>ISBN</td> <td>4-00-006240-9</td> <td>著者名</td> <td>平 朝彦</td> </tr> <tr> <td>出版社</td> <td>岩波書店</td> <td>出版年</td> <td>2001</td> </tr> <tr> <td>金額</td> <td></td> <td>備考</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="4" style="text-align: center;">参考書5</td> <td>書名</td> <td colspan="3">地質学II:地層の解読</td> </tr> <tr> <td>ISBN</td> <td>4-00-006241-7</td> <td>著者名</td> <td>平 朝彦</td> </tr> <tr> <td>出版社</td> <td>岩波書店</td> <td>出版年</td> <td>2004</td> </tr> <tr> <td>金額</td> <td></td> <td>備考</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="4" style="text-align: center;">参考書6</td> <td>書名</td> <td colspan="3">地質学III:地球史の探求</td> </tr> <tr> <td>ISBN</td> <td>4-00-006242-8</td> <td>著者名</td> <td>平 朝彦</td> </tr> <tr> <td>出版社</td> <td>岩波書店</td> <td>出版年</td> <td>2007</td> </tr> <tr> <td>金額</td> <td></td> <td>備考</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="4" style="text-align: center;">参考書7</td> <td>書名</td> <td colspan="3">気候変動を理学する</td> </tr> <tr> <td>ISBN</td> <td>978-4-622-07749-7</td> <td>著者名</td> <td>多田隆治</td> </tr> <tr> <td>出版社</td> <td>みすず書房</td> <td>出版年</td> <td>2013</td> </tr> <tr> <td>金額</td> <td></td> <td>備考</td> <td></td> </tr> </table>				参考書1	書名	海洋地球化学			ISBN	978-4-06-155237-1	著者名	蒲生俊敬編	出版社	講談社サイエンティフィック	出版年	2014	金額		備考		参考書2	書名	地球表層環境の進化-先カンブリア時代から近未来まで			ISBN	978-4-13-062720-7	著者名	川幡穂高	出版社	東大出版会	出版年	2008	金額		備考		参考書3	書名	海洋地球環境学—生物地球化学循環から読む			ISBN	978-4-13-060752-0	著者名	川幡穂高	出版社	東大出版会	出版年	2011	金額		備考		参考書4	書名	地質学I:地球のダイナミックス			ISBN	4-00-006240-9	著者名	平 朝彦	出版社	岩波書店	出版年	2001	金額		備考		参考書5	書名	地質学II:地層の解読			ISBN	4-00-006241-7	著者名	平 朝彦	出版社	岩波書店	出版年	2004	金額		備考		参考書6	書名	地質学III:地球史の探求			ISBN	4-00-006242-8	著者名	平 朝彦	出版社	岩波書店	出版年	2007	金額		備考		参考書7	書名	気候変動を理学する			ISBN	978-4-622-07749-7	著者名	多田隆治	出版社	みすず書房	出版年	2013	金額		備考		<input checked="" type="checkbox"/>
参考書1	書名	海洋地球化学																																																																																																																										
	ISBN	978-4-06-155237-1	著者名	蒲生俊敬編																																																																																																																								
	出版社	講談社サイエンティフィック	出版年	2014																																																																																																																								
	金額		備考																																																																																																																									
参考書2	書名	地球表層環境の進化-先カンブリア時代から近未来まで																																																																																																																										
	ISBN	978-4-13-062720-7	著者名	川幡穂高																																																																																																																								
	出版社	東大出版会	出版年	2008																																																																																																																								
	金額		備考																																																																																																																									
参考書3	書名	海洋地球環境学—生物地球化学循環から読む																																																																																																																										
	ISBN	978-4-13-060752-0	著者名	川幡穂高																																																																																																																								
	出版社	東大出版会	出版年	2011																																																																																																																								
	金額		備考																																																																																																																									
参考書4	書名	地質学I:地球のダイナミックス																																																																																																																										
	ISBN	4-00-006240-9	著者名	平 朝彦																																																																																																																								
	出版社	岩波書店	出版年	2001																																																																																																																								
	金額		備考																																																																																																																									
参考書5	書名	地質学II:地層の解読																																																																																																																										
	ISBN	4-00-006241-7	著者名	平 朝彦																																																																																																																								
	出版社	岩波書店	出版年	2004																																																																																																																								
	金額		備考																																																																																																																									
参考書6	書名	地質学III:地球史の探求																																																																																																																										
	ISBN	4-00-006242-8	著者名	平 朝彦																																																																																																																								
	出版社	岩波書店	出版年	2007																																																																																																																								
	金額		備考																																																																																																																									
参考書7	書名	気候変動を理学する																																																																																																																										
	ISBN	978-4-622-07749-7	著者名	多田隆治																																																																																																																								
	出版社	みすず書房	出版年	2013																																																																																																																								
	金額		備考																																																																																																																									

34. Webテキスト (URL・説明)	大学連携e-Learning教育支援センター四国(知プラ)ホームページ https://chipla-e.itc.kagawa-u.ac.jp/		<input checked="" type="checkbox"/>	
35. パソコン必要度	必要	36. 資格等／本科目受講が必要となる資格等 ／資格取得該当科目	なし	<input checked="" type="checkbox"/>
37. 教員相互参観授業公開日程				<input type="checkbox"/>
38. オフィスアワー	自大学 学生向け	メール(murayama@kochi-u.ac.jp)にて、要予約。授業の前後にも受け付けます		<input checked="" type="checkbox"/>
	連携大学 学生向け	moodle(e-learningシステム)上の専用掲示板「お知らせ」を利用し連絡すること		<input checked="" type="checkbox"/>
39. 連絡先／学生相談場所／学生開示用メール	自大学 学生向け	moodle(e-learningシステム)上の専用掲示板「お知らせ」を利用すること		<input checked="" type="checkbox"/>
	連携大学 学生向け	moodle(e-learningシステム)上の専用掲示板「お知らせ」を利用すること		<input checked="" type="checkbox"/>
40. その他／備考	高知大学生:理学部専門科目「海洋地質学」は二重履修になります			<input checked="" type="checkbox"/>

シラバス情報収集フォーマット(2016年6月改訂)

【記入要領】

1. 下記の**緑色部分**をご記入ください。(記入内容が無い場合は空白とせず無しと記入)
2. **グレー部分**は大学ごとに異なるため必要に応じて個別に対応をお願いする項目です。
3. **白色部分**はあらかじめ想定内容を記入しています。
4. 教員から学生へ必ず伝えてほしい内容についてはチェックボックスへチェック☑を入れて下さい。(各大学のシラバスに必ず記載されません)

1. 開講年度	2020		2. 開講学期	第2学期	
3. 開講学部・学科等 ／区分等	共通教育		4. 授業形態／授業種別	eラーニング	
5. 授業科目区分／科目分野／科目区分／区分等	教養科目キャリア形成支援分野		6. DPコード／分野コード／科目ナンバリング		
7. 科目名／科目英文名／英文併記	(日本語名) キャリアで活かすITリテラシー (英文名) IT literacy for your Career				
8. 副題(日本語・英語)	(日本語名) ITパスポートを学ぶ (英文名) Lets' Study IT Passport				
9. 担当教員名(教員ローマ字表記)	(日本語) 高畑 貴志 (ローマ字) TAKABATAKE Takashi				
10. 時間割コード／申請コード／授業コード			11. 昼夜		
12. 単位数	1		13. 選必区分／単位区分	なし	
14. 対象学生	全学部全学科		15. 対象年次／区分等／標準履修年次	1年生	
16. 曜日・時限	なし		17. 講義室		
18. 履修推奨科目	自大学 学生向け	なし	19. 関連科目(関連科目コード番号)	自大学 学生向け	なし
	連携大学 学生向け	なし		連携大学 学生向け	なし
20. 授業のキーワード／英文キーワード(3つ以上5つ以下)	ITパスポート, ストラテジ, マネジメント, テクノロジ IT Passport, strategy, management, technology				
21. 授業概要	ITパスポートの教科書に沿って、ITパスポートで求められる知識を順に身に付けていきます。 まず教科書をよく読み、重要なポイントを説明文に起こしてみましよう。説明文のうち、具体的で重要な事柄を5～10個選んでレポートとして提出します。その上で、公開されている問題を解き、正解率6割以上を達成してください。テクノロジー系のまとめの中間テストと、マネジメント系・ストラテジ系のまとめの中間テスト、および、期末試験をコース上で実施します。				☑
22. 授業の目的及び主旨／授業科目の主題	社会の活動を理解する。 社会でのITの活用を理解する。				☑
23. 授業の到達目標／学修課題	テクノロジー系の範囲から重要な事項を15個挙げ、簡単な説明が加えられる。 マネジメント系の範囲から重要な事項を10個挙げ、簡単な説明が加えられる。 ストラテジ系の範囲から重要な事項を10個挙げ、簡単な説明が加えられる。				☑

24. ディプロマ・ポリシー（卒業時の到達目標・共通教育の理念・教育方針に関わる項目）	
25. カリキュラムマップ（授業科目の主題・授業科目の到達目標とカリキュラムマップ）	
26. 授業スケジュール／授業計画並びに授業及び学習の方法	<p>【授業計画】</p> <p>※授業内容は変更になる可能性があります。</p> <p>第1回 授業概要および準備学修</p> <p>第2回（テクノロジ系）コンピュータシステム</p> <p>第3回（テクノロジ系）情報処理の基礎知識</p> <p>第4回（テクノロジ系）ITを支える各種の技術</p> <p>第5回（テクノロジ系）ネットワーク技術・セキュリティ技術</p> <p>中間テスト:テクノロジ系のまとめ</p> <p>第6回（マネジメント系）システムの開発・システムの運用管理</p> <p>第7回（ストラテジ系）企業の業務活動・企業の戦略</p> <p>第8回（ストラテジ系）企業の業務活動・企業の戦略</p> <p>中間テスト:マネジメント系・ストラテジ系のまとめ</p> <p>第9回 期末試験</p> <p>【授業及び学習の方法】</p> <p>全回オンデマンド型（非同期型遠隔講義）で行われます。教科書を使ってよく予習をし、毎回のレポートを提出した後、指定された期限までに確認テストに合格するという順序で学習すること。</p> <p>詳細については、コースのトップに記載している「受講の仕方」を参照すること。</p>
27. 授業時間外学習にかかわる情報	<p>【レポートの書き方】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・準備としてテキストを読み、項目ごとに説明文をノートに書いてみましょう。ノートに書いた中の指定した範囲から、5～10個を選んでレポートとして提出してもらいます。ただし、レポートには異なる項目から1文ずつを選ぶこと。 ・提出されたレポートにはコメントを返すので、コメントを見て参考とすること。ただし問題ない場合には「OK」、よく書かれている場合には「Good」とだけ返します。再提出が必要な場合には「再提出」と返します。 ・レポートの最初の行には、タイトルを付けること。表紙は不要、タイトルはレポートの中身を表すものを自分で考えて付けること。2行目には自分の氏名、所属、学年を書くこと。1行空け、4行目から説明文を5つ書くこと。 <p>*指定された範囲の内容を的確にまとめてあるレポートには加点します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・レポートのファイル名は、学籍番号v章番号とすること。（例:b143c021v4.docx） ・レポートはWordで作成し、圧縮せずに提出すること。 ・レポートはすべて提出すること。未提出や再提出が必要なのにしていなかった場合は、成績評価を行わない場合があります。

<p>28. 成績評価の方法と基準</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回のレポート 20% レポートは全て提出すること。未提出のレポートがある場合には、成績評価を行いません。 ・毎回のレポート追加点 10% レポートにGoodの評価を受けている場合の加点 ・確認問題 30% 公開されているCBT疑似体験ソフトウェアを使い、各回に対応する問題を解くこと。6割以上の正解を各回の合格条件とします。 ・中間テスト 20% 十分な予習時間をとり、間違えずに短時間で全問正解すること。誤答するたびに減点されます。2回受験が可能で、平均点が成績として加算されます。 ・期末試験 20% 中間テストと同様の問題で、1回のみ受験可能です。早く正確に解答すること。誤答するたびに減点されます。 ・単位修得のためには、すべての課題を終えた上、合計60点の点数を取得する必要があります。 				<input checked="" type="checkbox"/>																	
<p>29. 再試験の有無</p>	<p>自大学学生向け</p>	<p>なし</p>	<input checked="" type="checkbox"/>																			
<p>連携大学学生向け</p>	<p>なし</p>																					
<p>30. 受講の条件／先行科目／受講人数制限</p>	<p>受講人数制限:あり 香川大学10名・徳島大学10名・鳴門教育大学10名・高知大学10名・愛媛大学10名</p>				<input checked="" type="checkbox"/>																	
<p>31. 受講のルール履修上の注意・担当教員からのメッセージ／履修希望学生に求めるもの</p>	<p>各回に、締切期日を設定しています。レポートと確認問題を解いた結果は、締切期日までに提出してください。毎回のレポートを全て提出し、対応する確認問題を解き、中間テスト・期末試験を受験すること。未提出のレポートや未解答の問題・テスト・試験がある場合、0点と評価します。単位修得のためには、全ての課題を終えた上、合計60点以上の点数を取得する必要があります。</p> <p>* 締切に遅れても、必ず毎回のレポートを提出し、対応する確認問題を解いてください。各回の締切期日後は50%の評価とします。ただし、最終締切以降は受け付けません。</p> <p>* 中間テストは2回受験が可能で、2回受験した場合は平均点を成績とします。1回のみを受験も可能です。1回目で高得点をとった場合、2回目の受験をする必要はありません。期末試験は1回のみ受験可能です。</p> <p>* 各回の締切後にレポートをチェックし、コメントを返します。コメントを確認してください。再提出を指示された場合は、レポートを修正して再提出してください。</p>				<input checked="" type="checkbox"/>																	
<p>32. 教科書(購入の必要のある図書)</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td rowspan="4" style="text-align: center; vertical-align: middle;">教科書1</td> <td style="text-align: center;">書名</td> <td colspan="3" style="text-align: center;">令和02年 ITパスポートの 新よくわかる教科書</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">I S B N</td> <td style="text-align: center;">978-4-297-10926-4</td> <td style="text-align: center;">著者名</td> <td style="text-align: center;">原山 麻美子</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">出版社</td> <td style="text-align: center;">技術評論社</td> <td style="text-align: center;">出版年</td> <td style="text-align: center;">2019</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">金額</td> <td style="text-align: center;">1,280円(税抜き)</td> <td style="text-align: center;">備考</td> <td></td> </tr> </table>				教科書1	書名	令和02年 ITパスポートの 新よくわかる教科書			I S B N	978-4-297-10926-4	著者名	原山 麻美子	出版社	技術評論社	出版年	2019	金額	1,280円(税抜き)	備考		<input checked="" type="checkbox"/>
教科書1	書名	令和02年 ITパスポートの 新よくわかる教科書																				
	I S B N	978-4-297-10926-4	著者名	原山 麻美子																		
	出版社	技術評論社	出版年	2019																		
	金額	1,280円(税抜き)	備考																			

33. 教科書・参考書に関する補足情報	参考書1	書名				<input type="checkbox"/>
		ISBN		著者名		
		出版社		出版年		
		金額		備考		
	参考書2	書名				
		ISBN		著者名		
		出版社		出版年		
		金額		備考		
	参考書3	書名				
		ISBN		著者名		
		出版社		出版年		
		金額		備考		
34. Webテキスト (URL・説明)	大学連携e-Learning教育支援センター四国(知プラ)ホームページ https://chipla-e.itc.kagawa-u.ac.jp/				<input checked="" type="checkbox"/>	
35. パソコン必要度	必要	36. 資格等／本科目受講が必要となる資格等 ／資格取得該当科目	なし		<input checked="" type="checkbox"/>	
37. 教員相互参観授業公開日程					<input type="checkbox"/>	
38. オフィスアワー	自大学 学生向け	なし			<input checked="" type="checkbox"/>	
	連携大学 学生向け	(Skype等webで対応できる場合のみ) なし			<input checked="" type="checkbox"/>	
39. 連絡先／学生相談場所／学生開示用メール	自大学 学生向け	moodle内のコミュニケーションツール(フォーラム)を利用すること。			<input checked="" type="checkbox"/>	
	連携大学 学生向け	moodle内のコミュニケーションツール(フォーラム)を利用すること。			<input checked="" type="checkbox"/>	
40. その他／備考	moodleの使い方についての問い合わせ先: elmanabi@kochi-u.ac.jp				<input checked="" type="checkbox"/>	

シラバス情報収集フォーマット(2016年6月改訂)

【記入要領】

1. 下記の**緑色部分**をご記入ください。(記入内容が無い場合は空白とせず無しと記入)
2. **グレー部分**は大学ごとに異なるため必要に応じて個別に対応をお願いする項目です。
3. **白色部分**はあらかじめ想定内容を記入しています。
4. 教員から学生へ必ず伝えてほしい内容についてはチェックボックスへチェック☑を入れて下さい。(各大学のシラバスに必ず記載されま
す)

1. 開講年度	2020		2. 開講学期	第2学期	
3. 開講学部・学科等 ／区分等	共通教育		4. 授業形態／授業種 別	eラーニング	
5. 授業科目区分／科 目分野／科目区分／ 区分等	教養科目キャリア形成支援分野		6. DPコード／分野コー ド／科目ナンバリング		
7. 科目名／科目英文 名／英文併記	(日本語名) 業務効率化のためのIT活用入門 (英文名) Practical Use of Excel and Scripts for Business efficiency				
8. 副題(日本語・英 語)	(日本語名) 面倒なことはExcelとスクリプトで片付けよう (英文名) Semi-automate the Boring Stuff with Excel and Scripts				
9. 担当教員名(教員 ローマ字表記)	(日本語) 高畑 貴志 (ローマ字) TAKABATAKE Takashi				
10. 時間割コード／申 請コード／授業コード			11. 昼夜		
12. 単位数	1		13. 選必区分／単位区 分	なし	
14. 対象学生	全学部全学科		15. 対象年次／区分等 ／標準履修年次	なし	
16. 曜日・時限	なし		17. 講義室		
18. 履修推奨科目	自大学 学生向け	なし	19. 関連科目(関連科 目コード番号)	自大学 学生向け	なし
	連携大学 学生向け	なし		連携大学 学生向け	なし
20. 授業のキーワード ／英文キーワード (3 つ以上5つ以下)	業務効率化, Excel, スクリプト処理, バッチ処理 Business efficiency, Excel, Script processing, Batch processing				
21. 授業概要	<p>日々の業務における「ひとつひとつであれば簡単に終わる単純な処理」が大量かつ頻繁に発生する状況を想定し、IT技術を用いた半自動化により業務を効率よく処理する技法を身に付けます。手軽に活用できるよう、Microsoft Excel を中心に「プログラミング」まで踏み込まない範囲の技法を扱います。</p> <p>また、各大学が所在する地域に関する統計データを扱うことで、地元地域に対する理解を深めます。</p> <p>【授業の進め方】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. moodle上の資料を読み知識を身に付ける。 2. 身に付けた知識を確認するための問題が用意される。 3. 学生は、ほぼ毎回、確認用の小テストを受ける。 4. 身に付けた知識の最終確認のため、期末試験を受ける(2回まで受験可、平均点で評価) 5. 知識の応用のための、最終課題を課す。 <p>LMSコース内には、参加者同士が情報交換できる掲示板を設ける。</p>				
	☑				

22. 授業の目的及び主旨／授業科目の主題	生産的・創造的な仕事に集中できるよう、IT技術を用いた半自動化により業務を効率よく処理する技法を身に付けることが、本授業の最大の目的である。		<input checked="" type="checkbox"/>
23. 授業の到達目標／学修課題	1. Excelが大量の業務を効率よく処理する原理を理解できる。 2. Excelに用意された大規模データ集計に向くツールを5つ挙げ、その機能を説明できる。 3. スクリプトによるバッチ処理を説明でき、自分のPCで実行できる。 4. web上で公開されている統計データを探し、Excelに取り込める。 5. 1～4を統合して、自分の目的に応用できる。		<input checked="" type="checkbox"/>
24. ディプロマ・ポリシー（卒業時の到達目標・共通教育の理念・教育方針に関わる項目）			
25. カリキュラムマップ（授業科目の主題・授業科目の到達目標とカリキュラムマップ）			
26. 授業スケジュール／授業計画並びに授業及び学習の方法	【授業計画】 ※授業内容は変更になる可能性があります。 1. イントロダクション・Excelの基本1 2. Excelの基本2 3. 置換・並べ替え・条件判断の活用 4. アンケートの集計 5. 文字列の処理・スクリプト処理 6. 統計データの利用・フィルタ機能の活用 7. ピボットテーブルの利用 8. 総合演習		<input checked="" type="checkbox"/>
27. 授業時間外学習にかかわる情報	講義受講型ではないため、授業時間内・授業時間外という枠はありません。 eラーニングシステム moodle上のコンテンツを確認した上で、提示された活動に取り組んでもらいます。		<input checked="" type="checkbox"/>
28. 成績評価の方法と基準	確認テスト30% 期末試験40% 総合演習で作成した課題20% 総合演習で他の受講生が作成した課題にコメントすること 10% 単位の修得には60点以上の成績が必要です。		<input checked="" type="checkbox"/>
29. 再試験の有無	自大学学生向け	なし	<input checked="" type="checkbox"/>
	連携大学学生向け	なし	
30. 受講の条件／先行科目／受講人数制限	受講人数制限：あり 香川大学10名・徳島大学10名・鳴門教育大学10名・高知大学10名・愛媛大学10名		<input checked="" type="checkbox"/>

<p>31. 受講のルール履修上の注意・担当教員からのメッセージ／履修希望学生に求めるもの</p>	<p>Excelが使えるWindowsのPCを使用できる環境が必要となります。(PC実習室等でも可) Windowsのバージョン:8.1, 10 Excelのバージョン:Excel 2013, 2016, Office365のExcel, Excel2019</p> <p>授業時間という強制的な仕組みがないため、主体的に取り組む姿勢や、自分で計画を立てて持続できる自立力が重要になります。</p>			<input checked="" type="checkbox"/>																																																			
<p>32. 教科書(購入の必要のある図書)</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td rowspan="4" style="width: 10%; text-align: center;">教科書1</td> <td style="width: 20%;">書名</td> <td colspan="3"></td> </tr> <tr> <td>ISBN</td> <td></td> <td style="width: 15%;">著者名</td> <td></td> </tr> <tr> <td>出版社</td> <td></td> <td>出版年</td> <td></td> </tr> <tr> <td>金額</td> <td></td> <td>備考</td> <td></td> </tr> </table>			教科書1	書名				ISBN		著者名		出版社		出版年		金額		備考		<input type="checkbox"/>																																		
教科書1	書名																																																						
	ISBN		著者名																																																				
	出版社		出版年																																																				
	金額		備考																																																				
<p>33. 教科書・参考書に関する補足情報</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td rowspan="4" style="width: 10%; text-align: center;">参考書1</td> <td style="width: 20%;">書名</td> <td colspan="3"></td> </tr> <tr> <td>ISBN</td> <td></td> <td style="width: 15%;">著者名</td> <td></td> </tr> <tr> <td>出版社</td> <td></td> <td>出版年</td> <td></td> </tr> <tr> <td>金額</td> <td></td> <td>備考</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="4" style="width: 10%; text-align: center;">参考書2</td> <td>書名</td> <td colspan="3"></td> </tr> <tr> <td>ISBN</td> <td></td> <td>著者名</td> <td></td> </tr> <tr> <td>出版社</td> <td></td> <td>出版年</td> <td></td> </tr> <tr> <td>金額</td> <td></td> <td>備考</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="4" style="width: 10%; text-align: center;">参考書3</td> <td>書名</td> <td colspan="3"></td> </tr> <tr> <td>ISBN</td> <td></td> <td>著者名</td> <td></td> </tr> <tr> <td>出版社</td> <td></td> <td>出版年</td> <td></td> </tr> <tr> <td>金額</td> <td></td> <td>備考</td> <td></td> </tr> </table>			参考書1	書名				ISBN		著者名		出版社		出版年		金額		備考		参考書2	書名				ISBN		著者名		出版社		出版年		金額		備考		参考書3	書名				ISBN		著者名		出版社		出版年		金額		備考		<input type="checkbox"/>
参考書1	書名																																																						
	ISBN		著者名																																																				
	出版社		出版年																																																				
	金額		備考																																																				
参考書2	書名																																																						
	ISBN		著者名																																																				
	出版社		出版年																																																				
	金額		備考																																																				
参考書3	書名																																																						
	ISBN		著者名																																																				
	出版社		出版年																																																				
	金額		備考																																																				
<p>34. Webテキスト(URL・説明)</p>	<p>大学連携e-Learning教育支援センター四国(知プラ)ホームページ https://chipla-e.itc.kagawa-u.ac.jp/</p>			<input checked="" type="checkbox"/>																																																			
<p>35. パソコン必要度</p>	<p>必要。moodleの操作ができること。</p>	<p>36. 資格等／本科目受講が必要となる資格等／資格取得該当科目</p>	<p>なし</p>	<input checked="" type="checkbox"/>																																																			
<p>37. 教員相互参観授業公開日程</p>				<input type="checkbox"/>																																																			
<p>38. オフィスアワー</p>	<p>自大学 学生向け</p>	<p>なし</p>		<input checked="" type="checkbox"/>																																																			
	<p>連携大学 学生向け</p>	<p>(Skype等webで対応できる場合のみ) なし</p>		<input checked="" type="checkbox"/>																																																			
<p>39. 連絡先／学生相談場所／学生開示用メール</p>	<p>自大学 学生向け</p>	<p>eラーニングシステム(LMS: Learning Management System)上の専用掲示板(フォーラム)でいつでも受け付けています。</p>		<input checked="" type="checkbox"/>																																																			
	<p>連携大学 学生向け</p>	<p>eラーニングシステム(LMS: Learning Management System)上の専用掲示板(フォーラム)でいつでも受け付けています。</p>		<input checked="" type="checkbox"/>																																																			

40. その他／備考

moodleの使い方についての問い合わせ先: elmanabi@kochi-u.ac.jp



シラバス情報収集フォーマット(2016年6月改訂)

【記入要領】

1. 下記の**緑色部分**をご記入ください。(記入内容が無い場合は空白とせず無しと記入)
2. **グレー部分**は大学ごとに異なるため必要に応じて個別に対応をお願いする項目です。
3. **白色部分**はあらかじめ想定内容を記入しています。
4. 教員から学生へ必ず伝えてほしい内容についてはチェックボックスへチェック☑を入れて下さい。(各大学のシラバスに必ず記載されません)

1. 開講年度	2020		2. 開講学期	2学期	
3. 開講学部・学科等 ／区分等	共通教育科目		4. 授業形態／授業種別	(e-Learning視聴(教科書を併用する)＋ 自学自習(教科書の使用を含む)＋小テスト受験)×15回	
5. 授業科目区分／科目分野／科目区分／区分等			6. DPコード／分野コード／科目ナンバリング		
7. 科目名／科目英文名／英文併記	(日本語名) NPOと大学の経営 (英文名) Management of NPO(Non-Profit Organization) and the University				
8. 副題(日本語・英語)	(日本語名) 非営利法人の社会的役割 (英文名) Social Role of the Non-profit Corporation				
9. 担当教員名(教員ローマ字表記)	(日本語) 岩崎 保道 (ローマ字) IWASAKI, Yasumichi				
10. 時間割コード／申請コード／授業コード			11. 昼夜		
12. 単位数	2		13. 選必修区分／単位区分	無し	
14. 対象学生	全学部全学科		15. 対象年次／区分等 ／標準履修年次	全学部全学科	
16. 曜日・時限	無し		17. 講義室		
18. 履修推奨科目	自大学 学生向け	無し	19. 関連科目(関連科目コード番号)	自大学 学生向け	03030(大学政策論入門) 03031(非営利法人経営入門)
	連携大学 学生向け	無し		連携大学 学生向け	無し
20. 授業のキーワード ／英文キーワード(3 つ以上5つ以下)	NPO、大学、非営利法人、経営、社会的役割 NPO, University, Non-profit Corporation, Management, The sociality				
21. 授業概要	NPOにおける各分野の社会的役割や経営環境について解説する。さらに、大学の機能や経営環境について解説する。これらを四国の状況や事例を踏まえて展開する。 授業方法は動画の視聴を基本として、教科書を使用しながら説明する。				<input checked="" type="checkbox"/>
22. 授業の目的及び 主旨／授業科目の主題	NPO(医療法人、社会福祉法人、NPO法人など)の経営環境などについて学ぶ。また、NPOが設置する大学の機能や存在意義を理解する。特に、四国4県の状況に注目して解説する。				<input checked="" type="checkbox"/>
23. 授業の到達目標 ／学修課題	(1) NPO及び大学の経営環境が分かるようになる。 (2) NPO及び大学の社会的役割が分かるようになる。				<input checked="" type="checkbox"/>

24. ディプロマ・ポリシー（卒業時の到達目標・共通教育の理念・教育方針に関わる項目）	
25. カリキュラムマップ（授業科目の主題・授業科目の到達目標とカリキュラムマップ）	
26. 授業スケジュール／授業計画並びに授業及び学習の方法	<p><u>1 NPOの社会的役割(Ⅰ—1)</u> NPOの定義や社会的役割、分野や社会的ニーズの観点からみた存在意義について説明する。</p> <p><u>2 医療法人の経営環境(Ⅰ—2)</u> 医療法人の経営環境や社会的役割などを説明したうえで、四国の状況についてデータ等を踏まえて解説する。</p> <p><u>3 社会福祉法人の経営環境(Ⅰ—3)</u> 社会福祉法人の経営環境や社会的役割などを説明したうえで、四国の状況についてデータ等を踏まえて解説する。</p> <p><u>4 NPO法人の経営環境(Ⅰ—4)</u> NPO法人の経営環境や社会的役割などを説明したうえで、四国の状況についてデータ等を踏まえて解説する。</p> <p><u>5 宗教法人の経営環境(Ⅰ—5)</u> 宗教法人の経営環境などの概要を説明したうえで、データ等を踏まえて解説する。</p> <p><u>6 社団法人及び財団法人の経営環境(Ⅰ—6)</u> 財団法人と社団法人の経営環境や社会的役割などを説明したうえで、四国についてデータ等を踏まえて解説する。</p> <p><u>7 フィランソロピーとソーシャルアントレプレナー(Ⅰ—7)</u> フィランソロピー及びソーシャルアントレプレナーの社会的役割と特徴について説明したうえで、事例を踏まえて解説する。</p> <p><u>8 大学の基本的機能と経営(Ⅱ—1)</u> 大学の基本的機能(教育・研究・社会貢献)や、それを果たすための経営組織について説明する。また、私立学校を設置する学校法人の経営環境について解説する。</p> <p><u>9 大学におけるIR(Institutional Research)の活用(Ⅱ—2)</u> 大学におけるIRの定義や活用方法、期待される効果について説明したうえで取組事例を紹介する。</p> <p><u>10 大学の広報戦略(Ⅱ—3)</u> 大学広報の目的や期待される効果について説明したうえで、具体例を紹介しながら広報戦略の在り方について解説する。</p> <p><u>11 大学提携による機能強化(Ⅱ—4)</u> 組織提携の目的や効果を説明したうえで、大学提携による機能強化の事例(大学コンソーシアムなど)を紹介する。</p> <p><u>12 大学の地域連携による社会的役割(Ⅱ—5)</u> 大学が地域連携を行う目的や社会的役割、期待される効果について説明したうえで具体例を紹介する。</p>



	<p>13 大学発ベンチャーの展開(Ⅱ—6)</p> <p>我が国における大学発ベンチャーの展開や社会的効果を説明したうえで、全国的な動向をデータにより解説する。そのうえで、四国の状況を紹介する。</p> <p>14 大学教職員の人材育成(Ⅱ—7)</p> <p>大学における教職員の人材育成の目的や能力開発(FD及びSD)の必要性を説明したうえで、具体的な人材育成方法や期待される効果について解説する。そのうえで、大学教職員の人材育成の取組を紹介する。</p> <p>15 大学の財政(Ⅱ—8)</p> <p>会計の基本的役割を説明したうえで、大学の財政の特徴や課題について解説する。</p>																		
27. 授業時間外学習にかかわる情報	各回の授業の動画を視聴して、「小レポート(または、理解できたこと)」を提出すること。授業に対する質問があれば受け付ける。	<input checked="" type="checkbox"/>																	
28. 成績評価の方法と基準	<p>評価基準: 下記の小レポート及びレポート試験が達成目標に達しているか総合的に判断する。</p> <p>評価方法: 小レポート(20点)、中期レポート試験(40点)、後期レポート試験(40点)とする。詳細は別途、示す。単位取得条件として、合計60点以上を取得する必要がある。なお、モジュール内の学修が出席に相当する。</p>	<input checked="" type="checkbox"/>																	
29. 再試験の有無	<table border="1" data-bbox="357 835 1423 931"> <tr> <td data-bbox="357 835 584 882">自大学学生向け</td> <td data-bbox="584 835 1423 882">なし</td> </tr> <tr> <td data-bbox="357 882 584 931">連携大学学生向け</td> <td data-bbox="584 882 1423 931">なし</td> </tr> </table>	自大学学生向け	なし	連携大学学生向け	なし	<input checked="" type="checkbox"/>													
自大学学生向け	なし																		
連携大学学生向け	なし																		
30. 受講の条件／先行科目／受講人数制限	<p>受講人数制限:あり</p> <p>香川大学25名 徳島大学25名 鳴門教育大学10名 高知大学※10名 愛媛大学25名</p> <p>※高知大学の学生は、共通教育で開講している対面式授業の「大学政策論入門」(2単位)及び「非営利法人経営論入門」(2単位)の両科目を単位取得済みであることが履修の条件となります。</p>	<input checked="" type="checkbox"/>																	
31. 受講のルール履修上の注意・担当教員からのメッセージ／履修希望学生に求めるもの	<p>(1) 担当教員からのメッセージ</p> <p>NPOや大学は身近な機関です。NPOは今後、何らかの形で関わる機会もあるでしょう。学生の中にはNPO法人で活動されている方も多くおられます。また、学び舎である大学の機能や経営環境を知ることが大切なことです。</p> <p>(2) 履修希望学生に求めるもの</p> <p>NPO(大学を含む)に強い関心を持つ学生で、その社会的役割や経営環境などについて積極的に学びたい、何らかの形で今後役に立ちたい、という方の受講を望みます。また、NPOに関する課題解決や環境改善のためにどうすればよいか?という問題意識を持って取り組む姿勢を持つ方を期待します。</p> <p>(3) その他</p> <p>「10 大学の広報戦略(Ⅱ—3)」及び「14 大学職員の人材育成(Ⅱ—7)」についてはゲストスピーカーが担当します(「40. その他／備考」を参照)。</p>	<input checked="" type="checkbox"/>																	
32. 教科書(購入の必要のある図書)	<table border="1" data-bbox="357 1798 1423 2103"> <tr> <td data-bbox="357 1798 520 2103" rowspan="4">教科書1</td> <td data-bbox="520 1798 679 1912">書名</td> <td colspan="3" data-bbox="679 1798 1423 1912">『非営利法人経営論』</td> </tr> <tr> <td data-bbox="520 1912 679 1960">ISBN</td> <td data-bbox="679 1912 951 1960">978-4-86429-285-6</td> <td data-bbox="951 1912 1110 1960">著者名</td> <td data-bbox="1110 1912 1423 1960">岩崎保道編</td> </tr> <tr> <td data-bbox="520 1960 679 2007">出版社</td> <td data-bbox="679 1960 951 2007">大学教育出版</td> <td data-bbox="951 1960 1110 2007">出版年</td> <td data-bbox="1110 1960 1423 2007">2014年</td> </tr> <tr> <td data-bbox="520 2007 679 2103">金額</td> <td data-bbox="679 2007 951 2103">本体1,800円 + 税</td> <td data-bbox="951 2007 1110 2103">備考</td> <td data-bbox="1110 2007 1423 2103">(株)大学教育出版または各種オンラインショップのサイ</td> </tr> </table>	教科書1	書名	『非営利法人経営論』			ISBN	978-4-86429-285-6	著者名	岩崎保道編	出版社	大学教育出版	出版年	2014年	金額	本体1,800円 + 税	備考	(株)大学教育出版または各種オンラインショップのサイ	<input checked="" type="checkbox"/>
教科書1	書名		『非営利法人経営論』																
	ISBN		978-4-86429-285-6	著者名	岩崎保道編														
	出版社		大学教育出版	出版年	2014年														
	金額	本体1,800円 + 税	備考	(株)大学教育出版または各種オンラインショップのサイ															

					トで購入可		
	教科書2	書名	『大学の戦略的経営手法』				
		ISBN	978-4-86429-358-7	著者名	岩崎保道編		
		出版社	大学教育出版	出版年	2016年		
		金額	本体1,800円 + 税	備考	(株)大学教育出版または各種オンラインショップのサイトで購入可		
33. 教科書・参考書に関する補足情報	参考書1	書名	『大学政策論』				
		ISBN	978-4-86429-068-5	著者名	岩崎保道編		
		出版社	大学教育出版	出版年	2011年		
		金額	本体2,400円 + 税	備考	電子書籍版のみ購入可		
	参考書2	書名		著者名			
		ISBN		出版年			
		出版社		備考			
		金額					
	参考書3	書名		著者名			
		ISBN		出版年			
		出版社		備考			
		金額					
34. Webテキスト(URL・説明)	大学連携e-Learning教育支援センター四国(知プラ)ホームページ https://chipla-e.itc.kagawa-u.ac.jp/					<input checked="" type="checkbox"/>	
35. パソコン必要度	必要	36. 資格等／本科目受講が必要となる資格等／資格取得該当科目		教職・その他()		<input checked="" type="checkbox"/>	
37. 教員相互参観授業公開日程						<input type="checkbox"/>	
38. オフィスアワー	自大学 学生向け	あらかじめ電子メール(yiwasaki@kochi-u.ac.jp)にて予約すること 岩崎研究室(高知大学 教育学部1号館5階)				<input checked="" type="checkbox"/>	
	連携大学 学生向け	特になし				<input checked="" type="checkbox"/>	
39. 連絡先／学生相談場所／学生開示用メール	自大学 学生向け	電子メール(yiwasaki@kochi-u.ac.jp)にて連絡すること				<input checked="" type="checkbox"/>	
	連携大学 学生向け	同上				<input checked="" type="checkbox"/>	
40. その他／備考	「実務経験のある教員による授業科目」 ・実務家教員 岩崎保道 / 高知大学IR・評価機構の教員として、IR(Institutional Research)業務を担っている。この業務で得た知識や経験をもとに、IRに関わる授業(9 大学におけるIR(Institutional					<input checked="" type="checkbox"/>	

	<p>Research)の活用(Ⅱ—2))を行う。また、以前に学校法人 大阪女子学園 法人事務局の経理課会計係の事務職員を務めていた。この業務で得た知識や経験をもとに、財務に関わる授業(15 大学の財政(Ⅱ—8))を行う。</p> <p>・実務家教員 谷ノ内識 / 学校法人追手門学院の広報課長として幼稚園から大学・大学院までの広報業務の責任者を務めており、過去にはNHK記者として広報と関係する報道の経験もある。この業務で得た知識や実践経験をもとに、広報に関わる授業(10 大学の広報戦略(Ⅱ—3))を行う。</p> <p>・実務家教員 中元崇 / 大学コンソーシアム京都の勤務経験として、FD/SDを担当する事業部に所属していた。この経験を踏まえてFD/SDに関する授業(14 大学職員の人材育成(Ⅱ—7))を行う。</p>	
--	--	--

シラバス情報収集フォーマット(2016年6月改訂)

【記入要領】

1. 下記の**緑色部分**をご記入ください。(記入内容が無い場合は空白とせず無しと記入)
2. **グレー部分**は大学ごとに異なるため必要に応じて個別に対応をお願いする項目です。
3. **白色部分**はあらかじめ想定内容を記入しています。
4. 教員から学生へ必ず伝えてほしい内容についてはチェックボックスへチェック☑を入れて下さい。(各大学のシラバスに必ず記載されま
す)

1. 開講年度	2020年度		2. 開講学期	第2学期	
3. 開講学部・学科等 ／区分等	共通教育科目		4. 授業形態／授業種 別	(e-Learning視聴+自学自習+小テスト受 験等)×15回	
5. 授業科目区分／科 目分野／科目区分／ 区分等	無し		6. DPコード／分野コー ド／科目ナンバリング		
7. 科目名／科目英文 名／英文併記	(日本語名) ピア・サポート理論と実践				
	(英文名) Peer support theory and practice				
8. 副題(日本語・英 語)	無し				
	無し				
9. 担当教員名(教員 ローマ字表記)	(日本語) 杉田郁代				
	(英語) SUGITA Ikuyo				
10. 時間割コード／申 請コード／授業コード			11. 昼夜		
12. 単位数	2		13. 選必区分／単位区 分	無し	
14. 対象学生	全学部全学科		15. 対象年次／区分等 ／標準履修年次	無し	
16. 曜日・時限	無し		17. 講義室		
18. 履修推奨科目	自大学 学生向け	無し	19. 関連科目(関連科 目コード番号)	自大学 学生向け	無し
	連携大学 学生向け	無し		連携大学 学生向け	無し
20. 授業のキーワード ／英文キーワード(3 つ以上5つ以下)	ピア・サポート理論、人間関係トレーニング、ストレスに関わる基礎理論、アンガーマネジメント Peer Support Theory, Human relation Training, Basic theory about stress, Anger Control,				
21. 授業概要	人を支えるピア・サポート理論とその活動を実際に行うためのプロジェクトマネジメントについて学びま す。ピア・サポート理論は、教育心理学や臨床心理学、健康心理学等の知見を複合しています。その基 礎知識を獲得するとともに、ピア・サポート活動に必要なコミュニケーショントレーニングについても授業 の中の体験を通して学びを深めていきます。最終的には、プロジェクトの進め方等の基礎知識を身につ けることで、すぐにピア・サポート活動を実践できるように進めていきます。				<input checked="" type="checkbox"/>
22. 授業の目的及び 主旨／授業科目の主 題	人を支える活動(ピア・サポート)に関わる理論的な知識の獲得とそれらの知識を体験的に学び学習を 深めていきます。				<input checked="" type="checkbox"/>
23. 授業の到達目標 ／学修課題	<ul style="list-style-type: none"> ■ 生活の中でできる他者に対するサポートについて考えることができる ■ 他者とのコミュニケーションに関わる基礎知識を身に付け、考えることができる 				<input checked="" type="checkbox"/>

24. ディプロマ・ポリシー(卒業時の到達目標・共通教育の理念・教育方針に関わる項目)			
25. カリキュラムマップ(授業科目の主題・授業科目の到達目標とカリキュラムマップ)			
26. 授業スケジュール／授業計画並びに授業及び学習の方法	<p>* 授業内容は、変更になる可能性があります。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス(授業内容の概要説明を含む) 2. コミュニケーションに関わる基礎知識の獲得 3. コミュニケーションに関わる基礎知識の獲得と体験(1)「聞くことと聴くこと」 4. コミュニケーションに関わる基礎知識の獲得と体験(2)「自己理解と他者理解」 5. コミュニケーションから生じるストレス 6. コミュニケーションに関わる基礎知識の獲得と体験(3)「思い込みについて考える」 7. コミュニケーションに関わる基礎知識の獲得と体験(4)「怒りとストレスについて考える」 8. サポートに関わる基礎知識の獲得(5)「問題解決と合意形成、ピアメディエーション」 9. サポートに関わる基礎知識の獲得「サポートの限界について考える」 10. 自分ができそうなサポート体験について考える 11. 10. の意見共有から学ぶ 12. ティーチングに関わる基礎知識の獲得 13. 日常生活の中のサポートについて考える 14. 学びの実践から振り返る 15. 学んだことを日常生活に活用する 	☑	
27. 授業時間外学習にかかわる情報	授業外学習については、基礎知識を獲得するためのキーワード調べを行う。	☑	
28. 成績評価の方法と基準	リフレクションペーパー(学習課題の提出を含む)50点、ミニレポート(2回)20点、個人プレゼンテーション(2回)30点で成績評価し、合計60点以上の点数を習得する必要がある。モジュール内の学修活動が出席に相当する。	☑	
29. 再試験の有無	自大学学生向け	無し	☑
	連携大学学生向け	無し	
30. 受講の条件／先行科目／受講人数制限	<p>受講人数制限:あり</p> <p>香川大学25名 徳島大学25名 鳴門教育大学25名 高知大学25名 愛媛大学25名</p>	☑	
31. 受講のルール履修上の注意・担当教員からのメッセージ／履修希望学生に求めるもの	<p>学内外で、子ども達や地域の人と関わる学生、教職や社会福祉関連の仕事を目指している学生に受講を勧めます。いま、小中高等学校の現場においては、児童生徒の間のピア・サポート活動も盛んに行われています。</p> <p>人に関わるということは、コミュニケーションの基礎知識だけでなく、自分自身のことを理解しておくことと人をサポートするための知識が必要になります。誰かの役に立ちたい！何か新しいことを、人を巻き込んで始めたいという人は、ぜひ受講を勧めます。</p>	☑	

32. 教科書(購入の必要のある図書)	教科書1	書名				<input type="checkbox"/>
		ISBN		著者名		
		出版社		出版年		
		金額		備考		
33. 教科書・参考書に関する補足情報	参考書1	書名				<input type="checkbox"/>
		ISBN		著者名		
		出版社		出版年		
		金額		備考		
	参考書2	書名				
		ISBN		著者名		
		出版社		出版年		
		金額		備考		
	参考書3	書名				
		ISBN		著者名		
		出版社		出版年		
		金額		備考		
34. Webテキスト(URL・説明)	大学連携e-Learning教育支援センター四国(知プラ)ホームページ https://chipla-e.itc.kagawa-u.ac.jp/				<input checked="" type="checkbox"/>	
35. パソコン必要度	必要	36. 資格等／本科目受講が必要となる資格等／資格取得該当科目	教職・その他()		<input checked="" type="checkbox"/>	
37. 教員相互参観授業公開日程					<input type="checkbox"/>	
38. オフィスアワー	自大学 学生向け	事前にメール(isugita@kochi-u.ac.jp)で連絡をお願いいたします。			<input checked="" type="checkbox"/>	
	連携大学 学生向け	skype等のweb対応できる場合のみ 事前にメール(isugita@kochi-u.ac.jp)で連絡をお願いいたします。			<input checked="" type="checkbox"/>	
39. 連絡先／学生相談場所／学生開示用メール	自大学 学生向け	isugita@kochi-u.ac.jp			<input checked="" type="checkbox"/>	
	連携大学 学生向け	isugita@kochi-u.ac.jp			<input checked="" type="checkbox"/>	
40. その他／備考	学校現場の実務経験を持つ教員が、組織開発等において求められる人を助ける力であるピア・サポートの力全般を身に付けるための授業を行う。				<input checked="" type="checkbox"/>	

シラバス情報収集フォーマット(2016年6月改訂)

【記入要領】

1. 下記の**緑色部分**をご記入ください。(記入内容が無い場合は空白とせず無しと記入)
2. **グレー部分**は大学ごとに異なるため必要に応じて個別に対応をお願いする項目です。
3. **白色部分**はあらかじめ想定内容を記入しています。
4. 教員から学生へ必ず伝えてほしい内容についてはチェックボックスへチェック☑を入れて下さい。(各大学のシラバスに必ず記載されま
す)

1. 開講年度	2020		2. 開講学期	第2学期	
3. 開講学部・学科等 ／区分等	共通教育		4. 授業形態／授業種 別	(e-Learning視聴＋自学自習＋小テスト受 験等)×8回	
5. 授業科目区分／科 目分野／科目区分／ 区分等			6. DPコード／分野コー ド／科目ナンバリング		
7. 科目名／科目英文 名／英文併記	(日本語名) キャリアプランニング (英文名) Career Planning				
8. 副題(日本語・英 語)	無し 無し				
9. 担当教員名(教員 ローマ字表記)	(日本語) 森田 佐知子 (ローマ字) MORITA, Sachiko				
10. 時間割コード／申 請コード／授業コード			11. 昼夜		
12. 単位数	1		13. 選必区分／単位区 分	無し	
14. 対象学生	全学部全学科		15. 対象年次／区分等 ／標準履修年次	全学部全学科	
16. 曜日・時限	無し		17. 講義室		
18. 履修推奨科目	自大学 学生向け	無し	19. 関連科目(関連科 目コード番号)	自大学 学生向け	無し
	連携大学 学生向け	無し		連携大学 学生向け	無し
20. 授業のキーワード ／英文キーワード(3 つ以上5つ以下)	キャリアプランニング, 自己分析, 就職活動／career planning, self-assessment, job hunting				
21. 授業概要	本授業は、キャリアプランニングの基礎知識を集約的に学ぶものである。講義では、キャリアプランニングの基礎となる理論と合わせて、自己分析や、進路に関する選択肢の増やし方、職業研究の方法等を説明する。また、キャリア形成に関する自分の意見や自己分析・業界研究の結果、キャリアビジョンなどを受講生同士で共有し、フィードバックを得る機会を随時提供することで、多様な視点からキャリアプランを見直す力を醸成することを目指す。				<input checked="" type="checkbox"/>
22. 授業の目的及び 主旨／授業科目の主 題	キャリアプランニングを行う上で必要な基礎知識を身につけ、自らのキャリアについて省察し、将来の行動に繋げる契機とする。				<input checked="" type="checkbox"/>
23. 授業の到達目標 ／学修課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. キャリアプランニングにおいて必要な基礎知識と自己分析の手法を理解し身につける。 2. 業界や企業、職業に関する知識の広げ方を理解する。 3. 多様な視点から自分のキャリアプランを見直す力を身につける。 				<input checked="" type="checkbox"/>

24. ディプロマ・ポリシー (卒業時の到達目標・共通教育の理念・教育方針に関わる項目)					
25. カリキュラムマップ (授業科目の主題・授業科目の到達目標とカリキュラムマップ)					
26. 授業スケジュール／授業計画並びに授業及び学習の方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション(授業の流れの説明, 授業における目標設定) 2. キャリアプランニングの基礎理論 3. 自分を知る I (社会で求められる力と自分の強みを知る) 4. 自分を知る II (適職診断と志望業界・志望職種の広げ方を知る) 5. 働き方を考える(ワークライフバランスの本質とブラック企業) 6. 自分のことを他者に伝えるトレーニング(エントリーシートを書いてみよう) 7. インターンシップと就職活動 8. 授業のまとめ(これからの時代のキャリアプランニング), アンケート, 定期試験(レポート) 			<input checked="" type="checkbox"/>	
27. 授業時間外学習にかかわる情報	授業終了後, 授業を受けての自分なりのまとめや考察を行うこと。また, 毎回, 予習課題や小レポート等が課されるので, それを提出すること。			<input checked="" type="checkbox"/>	
28. 成績評価の方法と基準	<ul style="list-style-type: none"> ・予習課題と小レポートの合計が60%, 定期試験レポート40%の配点で評価する。 ・単位修得のためには, 合計60点以上を取得する必要がある。 ・モジュール内の学修が出席に相当する。 			<input checked="" type="checkbox"/>	
29. 再試験の有無	自大学学生向け	無し		<input checked="" type="checkbox"/>	
	連携大学学生向け	無し			
30. 受講の条件／先行科目／受講人数制限	受講人数制限:あり 香川大学5名 徳島大学5名 鳴門教育5名 高知大学50名 愛媛大学5名			<input checked="" type="checkbox"/>	
31. 受講のルール履修上の注意・担当教員からのメッセージ／履修希望学生に求めるものの	<p>本授業はキャリアプランニングの基礎を学ぶものです。自分の将来をどう設計したらよいか分からない人, 自分を知りたい人, 将来の選択肢の増やし方を知りたい人, キャリアや就職活動に興味がある人, 就職に向けて早めに準備をしたい人はぜひ受講してください。</p> <p>本科目はe-learningで行われますが, moodleのフォーラム機能などを活用し, 受講生同士の交流を取り入れます。多様な受講生との交流を通じて多様なキャリアに対する考えを学んでください。 (授業の内容は, 講師の都合や受講生の理解度などにより変更する可能性があります。)</p>			<input checked="" type="checkbox"/>	
32. 教科書(購入の必要のある図書)					
	教科書1	書名			<input type="checkbox"/>
		ISBN	著者名		
		出版社	出版年		
		金額	備考		

33. 教科書・参考書に関する補足情報	参考書1	書名				<input type="checkbox"/>
		ISBN		著者名		
		出版社		出版年		
		金額		備考		
	参考書2	書名				
		ISBN		著者名		
		出版社		出版年		
		金額		備考		
	参考書3	書名				
		ISBN		著者名		
		出版社		出版年		
		金額		備考		
34. Webテキスト (URL・説明)	<p>主にスライドを用いて授業を進めます。</p> <p>必要な書籍や参考図書がある場合は授業の中で説明します。</p> <p>大学連携e-Learning教育支援センター四国(知プラ)ホームページ</p> <p>https://chipla-e.itc.kagawa-u.ac.jp/</p>				<input checked="" type="checkbox"/>	
35. パソコン必要度	必要	36. 資格等／本科目受講が必要となる資格等／資格取得該当科目	教職・その他()		<input checked="" type="checkbox"/>	
37. 教員相互参観授業公開日程					<input type="checkbox"/>	
38. オフィスアワー	自大学 学生向け	電子メール(s.morita@kochi-u.ac.jp)を活用ください。対面を希望する場合は高知大学共通教育1号館3F 森田佐知子研究室にて行います。その場合も事前に電子メールで予約してください。			<input checked="" type="checkbox"/>	
	連携大学 学生向け	電子メール(s.morita@kochi-u.ac.jp)を活用ください。			<input checked="" type="checkbox"/>	
39. 連絡先／学生相談場所／学生開示用メール	自大学 学生向け	電子メール(s.morita@kochi-u.ac.jp)			<input checked="" type="checkbox"/>	
	連携大学 学生向け	電子メール(s.morita@kochi-u.ac.jp)			<input checked="" type="checkbox"/>	
40. その他／備考	この授業は実務経験のある教員による授業科目である。民間企業の人事部門で採用戦略立案や面接官を担当していた教員が、その経験を活かして、社会人として求められる力や就職活動、キャリア形成のために必要な知識等について講義を行う。				<input checked="" type="checkbox"/>	